



2018

愛媛大学工業会会誌

第32号



愛媛大学工業会

〒790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学工学部内
Tel/Fax 089-927-9702(ダイヤルイン)
E-mail: kogyokai@ee.ehime-u.ac.jp
ホームページアドレス<http://www.eu-kogyokai.jp>

新居浜高等工業学校同窓会
新居浜工業専門学校同窓会
愛媛大学工学部同窓会
愛媛大学大学院工学研究科同窓会
愛媛大学大学院理工学研究科(工学系)同窓会

愛媛大学工業会会誌（第32号）目次

ご挨拶 工学部長の挨拶 次の世代に向けた工学系人材育成を目指した新工学部工学科	工業会会長 武田 壽（機46）…………… 1 工学部長 高橋 寛 …………… 2
定年退職に際して 松山での48年を振り返って 38年前の思い出 定年退職に際して～延べ1万2千人の工学部学生に数学を教えて、	大賀水田生（院士51）…… 3 曾我部雄次 …………… 4 今かんがえていること～ 津田 光一 …………… 5 田村 実 …………… 6 藤田 欣裕 …………… 7
愛大キャンパスの樹木と共に 定年退職に際して	藤田 欣裕 …………… 7
編集委員会企画 2019年4月に新工学部工学科として新たな一步を踏み出します	工学部長 高橋 寛 …………… 8
特別記事 平成30年7月豪雨に関して 愛媛大学災害調査団 環境建設工学科（愛媛大学災害調査団事務局長）	工業会理事長 池内 直之 ……………10 森脇 亮 ……………10 環境建設工学科 木下 尚樹（院士H2） 額田 信一（電52）……………11 橋本 一寛（生機46）……………12 河野 徹（土42）……………13 岩井 幸雄（土52）……………14
平成30年7月西日本豪雨について 2018年7月広島市の豪雨災害報告 西日本豪雨災害報告 平成30年7月豪雨高知県被害状況	額田 信一（電52）……………11 橋本 一寛（生機46）……………12 河野 徹（土42）……………13 岩井 幸雄（土52）……………14
学内報告 海外研修と学生活動援助費について ……………	……………15
支部だより 東京支部報告 2017年4月～2018年7月 東海支部活動報告 平成29年度近畿支部の活動報告 岡山支部報告 広島支部報告 高松支部活動報告 高知支部報告 平成29年度『第25回愛媛大学工業会愛媛支部総会』報告	鳥海 基忠（機54）……………16 兵頭 修（機46）……………17 渡邊 武晴（機42）……………18 額田 信一（電52）……………19 河野 徹（土42）……………20 谷 喜文（院電53）……………21 中村 考男（鉦40）……………22 木村 正樹（院機54）……………23
クラス会報告 昭和38年卒鉦山学科クラス会in彦根 工業化学科昭和38年卒業同期会 電気工学科昭和39年卒クラス会 第14回（平成30年）電気工学科昭和40年卒クラス会 機械工学科昭和39年入学者同期会（卒業50周年記念） －（五）十年の汗を道後の温泉に洗へ－ 生産機械工学科昭和43年卒 卒業50周年記念同窓会報告 平成29年、平成30年度冶金学科参期会報告（冶金学科、昭和45・46・47年卒）	宗片 康修（鉦38）……………24 三瀬 皓愛（工化38）……………25 渡邊 健二（電39）……………26 清家 威侯（電40）……………27 丹後 吉藏（機43）……………28 中原 征司（生機43）……………30 三好 良一（院冶47）……………31 真矢 讓（電子55）……………32
電子55年クラス会	真矢 讓（電子55）……………32
二宮翔会活動報告 鳥人間コンテストにむけて	代表 土居将太郎（機械工学3回生）……………34
テニス大会 第39回工業会テニス大会報告	十河 基介（生機H4）……………35
愛媛大学基金 愛媛大学基金平成29年度決算報告について	愛媛大学長 大橋 裕一 ……………36
本部報告……………	……………37
役員一覧……………	……………43
学内近況……………	……………44
訃報……………	……………45
寄付金のお願ひ……………	……………46

ご 挨拶



愛媛大学工業会会長

武 田 壽
(機46・博士物質H21)

愛媛大学工業会会員の皆様には、日頃より、支部活動および本会の運営にご協力をいただきありがとうございます。まず、西日本豪雨などで尊い命をなくされた方々に哀悼の意を、また罹災されました皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧を心より願っております。今年も暑さだけでなく、例年以上に厳しく異常な気象が続く中、会員各位におかれましても、健康にご留意されて、ご自愛くださるよう祈念しています。

さて、本年も昨年に続き理事会をメール会議方式で開催しました。理事会の議案を各理事へメールで送付して、賛否やご意見をご回答いただきました。一部議案とその他案件につきましては、5月20日の役員会に先立つ、理事会（同日開催）でご議論していただきました。（メールアドレスの無い方は、郵送で対応しています）

支部長の皆様におかれましては、お忙しい中で遠路から理事会および役員会にご参集していただきました。御礼申し上げます。また開催に際して準備などに携われた常任理事や担当理事各位・事務局に感謝しております。

今年の役員会では、新しく名誉会長に就任されました高橋寛工学部長からご挨拶をいただきました。来年の工学部工学科への改組（一学科9コース）など、これからの工学部の新しい体制のご説明を頂きました。そして、「平成29年度事業報告及び決算報告」については、監査報告を含めて承認され、引き続き「平成30年度の事業計画及び予算」につきましても承

認されました。これを踏まえ会員の皆様のご協力を得ながら、平成30年度の事業を進めていきます。

皆様へのご案内（下記）として、来年度は、工学部創立80周年の愛媛大学工業会「通常総会」（5年に一度）の開催の年となります。今年度事業の一つとして、80周年「総会実行委員会」にて準備しますので、各担当の委員の皆さんには、ご負担になりますが、ご助力ください。また、数多くの会員の参加を希望しております。

諸先輩方のお考えが込められた「工業会会則」の精神に則り、工業会の「会員相互の親睦を図る」という目的に沿った「事業」、「支部活動」、「大学運営への参画」など、工業会会員の皆様のご意見を踏まえて、さらに、活発な支部活動への支援や、「名簿発行」などの事業も検討していきます。よろしくお願いします。

新しく会員となられました諸氏につきましても、工業会についてご理解していただき、工業会の事業および各支部活動へ参加していただきたく、そしてまたこの会誌が無事お届けできるよう、「連絡先」などの情報提供をお願いいたします。会誌に同封しております「連絡先調査」のハガキに記入して返送くださると幸いです。これは新会員のみならず、「会員名簿」の精度向上の一環として「会員情報に変更のない」会員にもお願い致します。

最後になりましたが、愛媛大学、また工学部・理工学研究科（工学系）、そして校友会と各学部の同窓会・後援会各位の今後益々のご発展と、工業会会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念しております。

…………… 愛媛大学工業会総会（工学部創立80周年）のご案内（予定） ……………

1	記念講演	日 時：2019年5月19日(日) 10：00より 講演者：愛媛大学工学部 未定	場 所：道後 大和屋旅館
2	通常総会	2019年5月19日(日) 11：00より	大和屋旅館にて
3	祝賀会	2019年5月19日(日) 12：00より	大和屋旅館にて
4	テニス大会	2019年5月18日(土) 10：00より	愛媛大学 テニスコートにて
5	ゴルフ大会	2019年5月18日(土)	松山市近郊のゴルフ場にて
6	クラス会	各クラス会で計画ください。本部で連絡などのお手伝いを致します。	

・総会などの出欠調査は、2019年3月ごろにご案内する予定です。

工学部長の挨拶

次の世代に向けた工学系人材育成を目指した新工学部工学科



愛媛大学工業会名誉会長（愛媛大学工学部長）

高橋 寛

愛媛大学工業会会員の皆様におかれましては、愛媛大学工学部に対して多大なるご支援を賜りまして心より

御礼申し上げます。4月に工学部長を拝命し、工学部改組のための設置審査に対応するために工学部の教職員と協力して日々精進しております。

近年は国策としての「理工系人材育成戦略」を受けて、中央教育審議会から「これからの高等教育機関の果たす役割」、文部科学省から「大学における工学系教育の在り方に関する検討委員会の中間まとめ」、および日本経済団体連合から「今後のわが国の大学改革のあり方に関する提言」などが次々と公表されています。これらのなかでは一様に、世界が不安定、不確実、複雑、曖昧な社会に変遷し、これまでの社会の枠組みでは限界が生じているため、新たな価値を見出すために新たな社会として「Society 5.0」を構築するための人材育成が大学教育の責務であると提言されています。

このような情勢下にあって、愛媛大学工学部は、3つの力「**変化する産業構造に幅広い知識で柔軟に対応する力（柔軟性）**」、「**グローバルに活躍できる行動的な力（実践性）**」、及び「**地域の工業をイノベーションする力（創造性）**」を養うことを目的として、新しい教育プログラムを構築しました。新しい教育プログラムでは、従来の6学科を1学科として、「機械工学コース」、「知能システム学コース」、「電気電子工学コース」、「コンピュータ科学コース」、「応用情報工学コース」、「材料デザイン工学コース」、「化学・生命科学コース」、「社会基盤工学コース」、および「社会デザインコース」の9コースに改組します。改組後の工学部の入学定員については、これまでの就職率、地元および全国からの求人数の実績を鑑みて、現行の500名です。

愛媛大学工学部においても「ものづくり」に代表される基盤工学への人材輩出は引き続き求められています。一方で、刻々と変化する産業構造に対応するため、情報・デザインと各専門を結び付けた新しい学際領域への人材輩出を目指した裾野が広い知識を有する工学系人材の育成も重要になってきました。そこで、新しい工学部工学科は、基盤工学教育と学際領域としての新工学領域を含めた全9コースとすることで、幅広い分野で活躍できる工学系人材の育成を目指します。

1学科制により、初年次科目として「工学共通基礎科目（学部共通基礎科目、学部共通実験を含む）」を導入し、工学の全体に通底する基礎的素養としての知識やスキルを修得できます。さらに、3年次開講予定の学部共通PBLや工学倫理・知財・キャリアリテラシーの導入が可能となります。学生は2年次から専門性を深めるために各コースの教育を受けます。

改組以外の新しい活動としては、愛媛県において船舶分野における学生の需要、地域企業への人材供給が整っていることをさらに活かして、工学部附属センターとして船舶海洋工学センターを設置しました。

愛媛県には工学部は私たちの学部しかないことから、地域に対しての大きな責任があります。これまで以上に次の3つのミッションのもとで活動したいと考えています。

ミッション1：地域への工学系人材の輩出

ミッション2：地域の持続可能性の強化

ミッション3：地域から日本・世界へ発信

最後になりますが、愛媛大学工業会会員の皆様のご健勝とご発展を祈念するとともに、新たな工学部の取組に対しまして、一層のご理解ご協力の程お願い申し上げます。

松山での48年間を振り返って



副学長

大賀 水田生 (院士51)

昭和45年3月末、九州の神話と伝説の町、高千穂から松山にやってきました。入学から3年間過ごした御幸寮は、

その当時、学生が自主管理しており、春休みにも関わらず先輩方から入寮のお世話をさせていただきました。入寮した夜、歓迎の花見で訪れた城山で照明に映える松山城の白壁に感激したのを昨日のように思い出します。あれから48年間、学生として学び、そして教職員として愛媛大学に在職することになりました。

中学時代、東京オリンピックを契機に、高千穂もそれまでの砂利道の道路が整備されるなど社会インフラの整備が進み、そこで見かける建設現場の監督の「網靴とヘルメット」に憧れたのが、土木工学科への進学の原因でした。農業以外にこれといった産業のない高千穂の学生の多くは、卒業後は東京あるいは大阪に就職するのが普通の進路でした。「四国の大学で楽しく学生生活を送り、東京に出かけ勝負する。」これが私の入学時の希望であり、当然そうなると思っていました。

大学3年時の夏休みに参加したインターンシップでは、当然建設現場を希望し、関西の某ゼネコンの宅地造成現場で約1か月研修しました。残念ながら、そこは私にとって「楽しい網靴とヘルメット」ではなく、最初の進路変更となりました。4年時の6月、新たな希望就職先である建設コンサルタントへの就職試験のため東京へ。この時が初めての上京でした。当時の入社試験は、今と違い、事前の会社訪問などはなく、一回の試験（普通は面接のみ）で入社が決まっていました。初めての東京のスケールの大きさに驚きショックを受けたこと、健康診断で少し問題が指摘されたことで学部卒での就職を取りやめ、大学院進学へと2度目の進路変更となりました。最終的には、大学院修了と同時に教務職として

奉職し、2年後に助手として採用され、それぞれ3年間の工学部長、理事・副学長を務めた後、今年の3月退職に至りました。

工業会では、教育・研究という大学の職務とは異なった楽しい経験をさせていただきました。工学部の教員は、教授会の構成員である教授を除いて、他学科の教職員と接する機会はほとんどありませんでした。そのような環境の中でも工業会の催しでは他学科の卒業生や教員の方々と接することができ、同窓生として楽しく、心強い思いをすることができました。特に退職までの十数年間は学内委員として工業会の行事に参加させていただきました。5年ごとに開催される総会の準備も楽しい思い出です。総会の準備をする中で、工学部の卒業生であることを実感することができました。

ご存知のように、わが国の国立大学は今大きな変換期になっています。国の財政問題に起因する大学運営交付金の削減、少子化に起因する受験生の減少、経済のグローバル化や産業構造の変化に伴う人材育成の多様化など、大学を取り巻く環境は大変厳しく、簡単には解決の糸口を見つけるのが困難な問題に直面しています。国や文部科学省からは、それぞれの大学の規模や特徴に応じた大学の分類化や大学間の統合などの改革案が提案されています。愛媛大学工学部も、将来の産業構造の変化により柔軟に対応できる人材の育成を図ることを主な目的に、平成31年度からはこれまでの6学科から1学科9コース制に移行することとなっています。

このような変革期にあって、新居浜高等工業学校以来の同窓会組織である工業会は、大学にとってはもちろんのこと、在学生や卒業生にとっても大変重要で頼もしい存在であると実感しています。このような工業会の益々の発展をお祈りし、退職に際しての挨拶とさせていただきます。

38年前の思い出



昭和55年に赴任して以来、またたく間に38年が過ぎ去ってしまいました。私が愛媛大学に赴任することになった経緯は、その前年、機械工学科機械力学講座の助教授として、大阪大学工学部から井上久爾男先生が転任されたことに因ります。井上先生は、私が学生時代に所属していた研究室の助手をされており、研究とはあまり関係のない物理や数学の議論をしていただきました。井上先生が愛媛に赴任した時点で機械力学講座の助手ポストが空いており、私が松山出身でもあることからお誘いいただいたのです。機械力学研究室の教授である都築先生も同じ研究室の大先輩でした。私は大学院修士修了後、松下電器（現パナソニック）に勤めて2年目でした。盆休みのある日、井上先生と一緒に都築先生のご自宅を訪問し、しばらく談笑した後、都築先生から「じゃあ僕のところ

でやってみるか」と言っていました。当時は、教授の意向で人事が実質的に決まっていたようです。現在の厳格な公募制では考えられないような簡単な手続きでした。

経理上の理由から、昭和55年2月20日(水)に松下電器退職となり、翌日の2月21日に愛媛大学採用です。会社勤務の最終日、京阪電車で大阪府枚方市にある会社の寮に帰って荷造りをしていたところ、テレビのニュース速報が「京阪電車が枚方駅付近で脱線し大事故」と伝えていました。時間的に見て私の乗っていた電車のすぐ後の電車のようにです。翌朝、電車は不通で、遅れて2月22日の夕方に到着したところ都築先生から大変お叱りを受けました。38年以上も昔のことですが、細かなことまで鮮明に記憶しているのが不思議です。

昭和55年の工学部は、機械、電気、土木、工業化学、冶金、生産機械、電子、海洋の8学科で、各学

理工学研究科生産環境工学専攻機械工学コース

曾我部 雄次

科の学生定員は、1学年当たり40～50名でした。機械工学科は5講座、学生定員50名で、各講座の教官構成は、材料力学（姫宮助教授、千田助教授）、熱工学（山内教授、前川講師、村上助手）、流体力学（鮎川教授、越智助教授、高島助手）、計測工学（紺田教授、井出講師、八木助手）、機械力学（都築教授、井上助教授、曾我部助手）の14名でした。また、共通講座の応用物理（西武教授、花山講師、木村助手）にも機械工学科の卒論生が配属されていました。まだ教養部が存続しており、卒論配属になるまで、専門移行判定と卒論資格判定という2つの関門があり、留年率は毎年50%前後もあり、それが当たり前の状態でした。このような理由で、研究室に配属される学生は少なかったのですが、その分学生と教官の距離が近く、よい教育ができていたように思います。

研究室には、教官3名のほかに平尾光男技官が在籍していました。平尾さんは、野球、釣り、囲碁、将棋、麻雀など多方面にわたって万能な人で、年齢も近かったためよく遊んでもらいました。その頃、技官には宿直当番が月1回程度回ってきたのですが、平尾さんが宿直当番の日は、私と学生2～3名が宿直室に監禁され、徹夜麻雀で夜を明かしたものです。

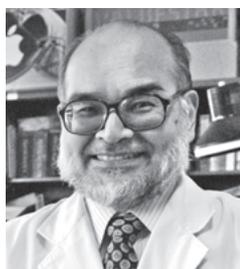
私を愛媛大学に導いてくれた井上先生は、私が着任した翌年の昭和56年1月42歳で急逝されました。私の良き相談相手となっただき公私にわたってお世話になった千田豊満先生も、平成3年49歳で他界されました。昨年8月には都築先生も逝去されました。このほか機械工学科では、高島伸先生、檜原秀樹先生、谷脇滋宗先生が在職中に不幸にも逝去されました。これらの先生方のご冥福を心よりお祈り致します。健康で定年を迎えられた私は、つくづく幸運な人間であったと思います。

定年退職に際して

～延べ1万2千人の工学部学生に数学を教えて、今かんがえていること～

理工学研究科電子情報工学専攻電気電子工学コース

津田光一



教養部在職10年、工学部在職21年の約30年の間に、数学を教えた工学部学生の数はどのくらいになるか計算したところ、年間400名として1万2千名という数字になりました。これは、当職が工学部で所属していた、電気電子工学科の学生だけではなく、応用化学科、環境建設工学科の学生や、更には、大学院生（毎年100名程度）を含んだ数です。そのそれぞれに15週間、毎週90分講義と試験を実施してきたことになります。

それに加えて、数学ではなく電気に関連したテーマで、卒研究生や院生も指導したこともあり、学科長を2年経験し、自己点検委員などの管理運営の仕事もした事を入れると、30年間で数学だけではなく、だいたい工学部の全体像は、頭に入っていると思っています。

それらを踏まえて、今書いておきたいことを以下述べてみます。平成31年から工学部の学部改組が実施されて、数学の授業も大幅にその開講形態が変わります。一番おおきな変化は、これからは学科単位で入試をしないので、今現在のカリキュラム案では、1クラス75名程度の言わば、学生番号による輪切りで数学を教えることになる点です。

文部省で公開されている工学教育についての報告書 [1] の中では、数理・データサイエンス重視ということで、数学については重視される方向ではあると言えます。今回の学部改組もこれを受けたものですが、その効果的な学生への指導法となると、それが難しい。

これは、論文 [2] で書いたことですが、いま学生の指導で大切なのは、「限られた時間内で完璧を

めざす（あるいは、最善を尽くす）」ことを教えることだと考えています。

どうしても学生は手を抜くことばかり考える。それをどうにか変えてゆきたいわけです。

例えば、ピョンチャンオリンピックの女子パシュート（3名で滑るスケート）競技で、あぶなげなく金メダルを取った時のレースのTV放送を見ながら、日本の教育の基本はこれだと再確認したわけです。勿論、それをいかに指導するかという指導者の育成も必要ですね。

また、上に述べたこととも関連しますが、まずは「学生に元気を出させる講義」を目標とするべきだと思っています。その場合には、規制や管理で学生を縛りつけることよりも、基本的には、イソップ童話にある「北風と太陽」のように、時間をかけて温かく見守ることが大切なのではないかと考えているわけです。詳しくは [2] を参照してください。

舌足らずの文章になりましたが、あと数年は非常勤で実践する機会があるはずなので、その現場で、自分自身、限られた時間内で最善を尽くしてみたいと考えております。

[1] 大学教育改革方策の方向性 中教審大学分科会・将来構想部会合同会議傍聴録 (H30. 3. 27) <https://keinewsstandblog.wordpress.com/2018/04/11/>

[2] 津田光一、ゆとり教育廃止後の工学部学生に見られる数学力の問題点、大学教育実践ジャーナル第16号, pp. 109-116 (2018). https://web.opar.ehime-u.ac.jp/books_cat/journal/ (ここにPDFファイルがあります。)

愛大キャンパスの樹木と共に



前任地の大分医科大学より
転任してから25年余りが過
ぎ、このたび定年退職を迎え
ました。私がこちらに来た

1992年秋は、日本経済のバブルがはじけた直後で、学生の就職状況が悪化し始めた頃でした。その後、何回か就職活動のアップダウンがありました。幸いここ数年は売り手市場となり、学生の就職に関しては思い残す事なく退官できることを嬉しく思います。一方で、長く勤務したわりに工学部にも学科にも大した貢献ができなかったことを心苦しく思いますが、それはさておき、私が教育と研究に奮闘したこの城北キャンパスの思い出を綴りたいと思います。

着任した当時、工学部の研究棟や講義棟は前近代的なものでした（4号館を除いて）。現在の工学部新館の立つ場所は、土がむき出しのグラウンドで、陸上部やサッカー部が練習する光景が見られました。また愛大ミュージズは改修前で、共通教育の古びた建物と暗い雑木林のような中庭がありました。あれから四半世紀、キャンパスは見違えるように整備され、数年前には正門からメディアセンターにいたる庭園も完成して、まるで私大のように美しい大学に生まれ変わりました。

しかし、こうした中で変わらずに存在し続けているものがあります。それは樹木たちです。愛大に来て最初に気づいたことは、その4年前まで留学していたエモリー大学（米国ジョージア州アトランタ）のキャンパスと同じ樹が植えてあるということでした。愛大ショップからテニスコートに向かう並木道のタイサンボクです。この樹は、初夏に大きな花を咲かせる印象的な樹です。後年、工学部周辺にはハナミズキが植えられましたが、これもエモリー大学のキャンパスでは馴染みのものでした。偶然ですが、松山とアトランタは緯度が同じで、植物の生育環境としても似ているのかも知れません。

理工学研究科物質生命工学専攻応用化学コース

田村 実

これらの樹々はふだん和名で呼ばれていますが、実はいずれも北米原産の外来樹です。城北キャンパスには、他にも北米原産の樹木が何種か見られます。愛大ショップから実習工場への道に並ぶアメリカカワフは秋には見事に紅葉します。また図書館と愛大ミュージズの間立つ、背の高いユリノキも北米原産です。そのユリノキの一本が、ある日突然倒れた時、私は残念に思いましたが、あるアメリカ人英語教官はその樹に捧げる追悼の詩を廊下に貼り出していました。その樹に愛着をもっていたのは私だけではなかったと知りました。

一方、東アジア原産の樹として、愛媛大学にはクスノキがあります。工学部周辺では、南の線路側と西の北高側に何本もの大きなクスノキが立っています。これらは樹齢を重ねて威風堂々としており、私はしばしばその木陰に身を寄せて梢を仰いだものです。これらの樹々は、研究と講義に明け暮れる教員生活の合間に、心を和ませてくれました。私の専門は生物化学ですが、対象は専ら動物の体で植物は専門外です。けれども、キャンパスを歩いていて、これらの樹々には心を惹かれ、また関心をもってきました。思えば、時を超えて存在し愛媛大学の歴史をずっと見守ってきた樹木たちです。これからも大切に扱われ、健やかに保たれていくことを願っています。

以上、キャンパス風景について、個人的な心象を取り留めもなく綴りましたが、今こうして大学を去るにあたり、惜別の思いとともに、この美しく整った愛媛大学そして工学部のさらなる発展を祈らずにはられません。

最後に、永きにわたって私の研究教育活動を支えて下さった学科の同僚、職員、さらに工学部、愛媛大学の関係各位にこの場を借りて感謝の意を表します。

定年退職に際して



平成22年10月、放送技術者として勤務したNHKを定年退職し、愛媛大学にて、大学教員としての新たな生活をスタートした。

それまで、愛媛は何度となく訪れたことはあったが、特に馴染みの深い地域ではなかった。当初は、慣れないことで、不安もあったが、かねてより希望していた教職に従事する喜びで、充実した日々を送ることができた。平成30年3月、無事に定年退職を迎えた。これも関係の皆様方より、ご指導、ご支援をいただいたおかげであり、心より感謝する。振り返って見れば、あっと言う間の7年半だった。退職に際しては、特筆すべき、研究成果や業績もなく、心苦しく残念に思っている。ここでは、大学院電子情報工学専攻、在職中に印象に残ったことを述べたい。断片的な内容ではあるが、何らかの参考になれば幸いである。

担当した仕事の中で最も印象に残っているのは、学年担任と就職指導である。苦労もあったが、学ぶことが多い貴重な経験であったと思っている。

1つ目の学年担任であるが、内容は生活指導が主であり、研究室や授業での指導とは異なる。専門分野の知識や経験だけではない、より広い経験に基づく指導力が求められる。今まで経験したことのない領域でもあった。短い在職期間ではあったが、幸いにも、入学から修士課程を修了するまでの、1サイクルを経験することができた。また他の先生方の指導法やその効果などについて参考になることが多かった。少ない経験の中で気がついたことは、入学時には会話もままならず、少し心配に思って不安に思っていた学生が伸びることが散見されることである。6年後の修了時には、変貌し、その成長ぶりの意外性に驚くことがあった。一般的にも言われてい

理工学研究科電子情報工学専攻情報工学コース

藤田 欣裕

ることだが、伸びる学生の多くは、友人やサークル、教職員とのつながりが強い。つながりやすい、より良い環境が必要であることを改めて思い知らされた。

また2つ目の就職指導は、7年間継続して担当した。その結果、いろいろなタイプの学生、多くの卒業生や企業採用担当者を知り合うことができた。印象に残っていることは、各企業の人事担当者からもらった、愛媛大学出身者の評価コメントである。愛媛大学出身者は大都市圏の大学出身者と比較し“伸びしろ”があると言う。大都市圏大学の出身者は、いろいろな意味でストレスの多い社会の中で疲弊しやすいのだそうである。“伸びしろ”は過去の成長の過程で無理をせず、将来に余裕を持っていることを示している。私も短い教員経験の中で、このコメントのように愛媛大学の卒業生はこの“伸びしろ”を持った学生が多いと思っている。漠然とではあるが、これは大学が存在する愛媛の地域、風土の良さから来るものではないかと感じている。

今後は人生100年と言われ、現在よりも変化が激しく先が読めない時間も長くなると予想される。さらに“伸びしろ”のある、人材育成が期待される。この育成のためには、愛媛地域文化と人のつながりについて、より良い環境の構築が重要ではないかと思う。

私自身も在職した7年半の間、研究室を中心とした専門分野だけではない、広い分野でいろいろな人と接する機会を得た。今後も貴重な宝物として、大切にしていきたいと思っている。

退職してから、数ヶ月がたち、現在は東京の大学で非常勤講師を務めている。愛媛の良さをつくづく感じつつ、いろいろなことを経験させてもらったことに深く感謝している。愛媛大学工業会と読者の皆様のさらなるご発展を祈念する。

2019年4月に新工学部工学科として新たな一步を踏み出します

工学部長 高橋 寛

皆様の母校である愛媛大学工学部は、2019年4月に新工学部工学科として新たな一步を踏み出します。

現在(7月末)、設置審査中でありますことから、以下の説明は設置審査のために文部科学省に提出した申請に基づいており、一部冒頭のご挨拶と重複する内容となりますが、ご了承下さい。

1. 工学部改組の趣旨

「Society 5.0」や「第4次産業革命」を目指した日本社会の急速な変化及び複雑化・多様化する産業における技術革新に伴って、工学系人材の育成強化が望まれています。この社会からの要請に応えるために、愛媛大学工学部は、3つの力「**変化する産業構造に幅広い知識で柔軟に対応する力(柔軟性)**」、「**グローバルに活躍できる行動的な力(実践性)**」、及び「**地域の工業をイノベーションする力(創造性)**」を養うことを目的とする新しい教育プログラムを構築しました。新しい教育プログラムでは、「基礎となる教育の充実」、「分野横断的な教育プログラムの提供」、および「実践的な内容・方法による授業の提供」を可能とするために従来の6学科を1学科(9コース)に改組します。

改組後の工学部の入学定員については、これまでの就職率、地元および全国からの求人数の実績を鑑みて、現行の500名です。

2. 工学部改組の概要

新しい「工学科」は、「機械工学コース」、「知能システム学コース」、「電気電子工学コース」、「コンピュータ科学コース」、「応用情報工学コース」、「材料デザイン工学コース」、「化学・生命科学コース」、「社会基盤工学コース」、「社会デザイン

コース」の9教育コースで構成されます。

1学科制により、初年次科目として「工学共通基礎科目(学部共通基礎科目、学部共通実験を含む)」を導入でき、工学の全体に通底する基礎的素養としての知識やスキルを修得できます。さらに、3年次開講予定の学部共通PBL(Project/Problem Based Learning)や工学倫理・知財・キャリアリテラシーの導入が可能となります。事前に自ら進む専門分野への見通しが得られるとともに、その工学全体の中での位置づけを知ることができ、進むべき進路へのモチベーションの向上につながります。

工学系人材の輩出の観点からすると国内には機械、電気・電子・通信、化学・材料、環境・土木と関連ある企業が多く、愛媛大学工学部においても「ものづくり」に代表される基盤工学への人材輩出は引き続き求められています。一方で、刻々と変化する産業構造に対応するため、情報・デザインと各専門を結び付けた新しい学際領域への人材輩出を目指した裾野が広い知識を有する工学系人材の育成も重要

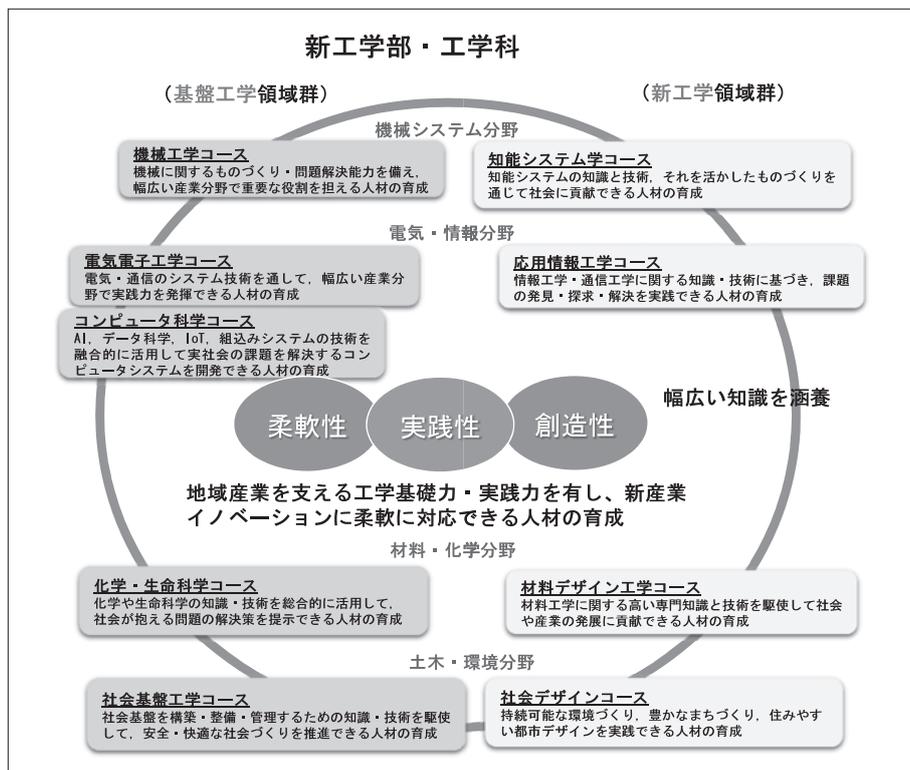


図1 工学部工学科の新しい教育コース

になってきました。そこで、工学部工学科は、基盤工学教育と学際領域としての新工学領域を含めた全9コースとすることで、幅広い分野で活躍できる工学系人材の育成を目指します。具体的には図1に示すように、(1)機械工学、電気電子工学・情報学、材料工学・化学、土木工学の4分野の「ものづくり」を強く志向した「機械工学コース」、「電気電子工学コース」、「コンピュータ科学コース」、「化学・生命科学コース」、「社会基盤工学コース」の5コースを基盤工学教育コースとして設置します。(2)上記4分野において、「システムづくり(デザイン思考)」を強く志向した「知能システム学コース」、「応用情報工学コース」、「材料デザイン工学コース」、「社会デザインコース」の4コースを新工学領域の教育コースとして配置します。

3. 工学部工学科の教育の特色

工学科は、図2に示すように、工学共通基礎科目群とそれぞれに特徴ある教育を実施する複数の教育コースからなります。基本的な方針は、まず工学の基礎をしっかりと学んで、その後、自分で選択した教育コースにおいて特定の専門分野を深く学びます。

工学系技術者・研究者を目指す学生が基本的に身につけなければならない知識・スキルを涵養するために、学科全体で工学共通基礎科目を開講します。

1年次の工学共通基礎科目は、複数の学部共通基礎科目(化学基礎、物理基礎、基礎安全学、基礎情報科学、工学コミュニケーションなど)(1年次)、及び「学部共通実験」(1年次)からなります。

新工学科は、機械・システム系、電気・情報系、材料・化学系、および環境・土木系の専門分野で構成します。1年次後期に「専門入門科目」として、種々の工学分野の入門的な科目を開講します。学生

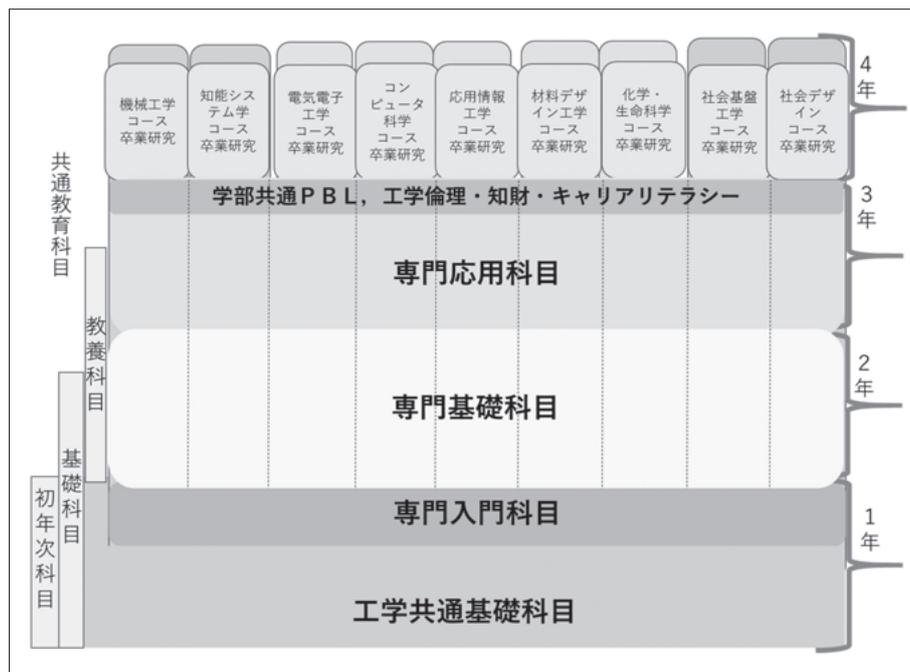


図2 工学部工学科の教育の特徴

に専門入門科目群から複数の科目を選択させることによって、コースの入門科目だけでなく多方面の入門的な科目を学ぶことができる機会を与えます。専門入門科目を履修することによって、学生に興味だけではなく、科目を学ぶことによって自身の適性を考えることができる機会を与えます。

3年次前期においては、社会とのインタラク션을意識して、自己の学びを深めるために「工学倫理・知財・キャリアリテラシーⅠ、Ⅱ」を実施します。3年次後期においては、学生がテーマを自由に選択できる「共通PBL」(学部共通PBL)を実施します。この共通PBLにおいては、各教育コースから数名の学生を選出して、分野融合のPBLを実施する予定です。

愛媛大学の工学部は伝統的な工学分野が充実した学部としてこれまでに教育・研究を実施してきました。その成果として優秀な工学系人材を産業界に輩出してきました。その伝統に基づいて、新しい教育・研究を提供できる新工学部工学科の設置を目指しています。

今後も工業会の皆様にはご支援の程よろしくお願い致します。

平成30年7月豪雨に関して

工業会理事長 池内直之

今年、6月28日から7月8日にかけて、台風7号および梅雨前線等の影響により全国的に広い範囲で記録的な大雨となりました。特に7月7日から9日にかけて、西日本を中心に多くの地域で河川の氾濫や浸水害、土砂災害が発生し、死者数が200人を超える甚大な災害となりました。被災された皆様ならびにご家族の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。また、今なお避難されている皆様、復旧作業に従事されている皆様の安全と被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

地元愛媛でも、西予市野村町や大洲市、宇和島市吉田町を中心に大きな被害が発生しました。水によ

る被害は想像を遥かに超えて大きく、復興には長い時間がかかるものと思います。愛媛大学でも夏季休暇を利用してボランティアバスを運行するなど、復興への支援活動を続けております。

本会では、微力ながら日本赤十字社を通じて被害の大きかった広島、岡山、愛媛、高知に支援金として合わせて20万円の寄付をさせていただきました。また急きょ、関係支部にお願い致しまして被災地の様子を伝えて頂く特別記事を本誌に掲載することに致しました。会員の皆様の引き続きのご支援をお願い致しますとともに、本記事が防災に対する今後の教訓としてお役に立てれば幸いです。

愛媛大学災害調査団

環境建設工学科（愛媛大学災害調査団事務局長） 森 脇 亮
環境建設工学科 木 下 尚 樹（院土H2）

このたびの豪雨災害により犠牲となられた皆様に対し、深く哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

この甚大な災害の発生に当たり、「地域とともに輝く大学」を基本理念におく愛媛大学では、主に県内の被害状況を調査し今後の災害への備えに資するため、学内教員で構成する調査団を結成しました。大橋裕一学長を団長として、全学的に調査団を募集した結果、7月23日現在で理工学研究科、医学系研究科、法文学部、農学研究科、教育学部、社会共創学部、防災情報研究センターなどから53名の調査団員が集まりました。調査団では、被災した各地の情報収集と現地調査を行っている最中で、県内の被害状況、要因などについての調査結果は、順次ホームページ（<http://www5.cce.ehime-u.ac.jp/saigai/>）で提供しています。気象状況、洪水被害・浸水被害、

交通状況、土砂災害、災害ガバナンス（住民、行政）、インフラ被害（道路、堤防、法面等）、農業被害、医療機関の対応、観光資源、経済影響、BCP（事業継続計画）、文化財保護など、調査項目は多岐に渡りますが、教員の力を結集して調査を行っております。

また、単に調査を行うだけでなく、一般の方々やマスコミ向けに定例会見、報告会、速報会も随時実施しており、情報発信も同時に行っております。これらの情報や愛媛大学の全学的な「平成30年7月豪雨」への取り組みについても大学ホームページ（<http://www.ehime-u.ac.jp>）に掲載されています。どうかご覧ください。

我々調査団は「地域に寄り添う調査」を目指しています。皆様、この未曾有の事態を共に乗り越えて参りましょう。

調査団が撮影した被災状況写真



宇和島市吉田町の斜面災害



肱川氾濫による橋梁の流失



肱川氾濫による護岸崩壊と橋台の露出



肱川氾濫の痕跡（枯草）

平成30年7月西日本豪雨について

岡山支部 額田 信一（電52）

この度の西日本を中心とした豪雨では、岡山県内にも多くの被害を生じ、全国の皆さんにご心配をお掛けしました。義援金やボランティア活動などで被災地のご支援をいただいている皆様に厚く御礼申し上げます。

被災地の状況は、概ね報道機関により紹介されている通りですが、それに追加して二つほどお知らせしたいことがあります。

その第一は、報道などで大きく取り上げられている被災地以外の場所でも、小規模な災害（住宅・事業所の浸水や道路・裏山のがけ崩れなど）はたくさん発生しているということです。これら小規模被災

地の方々には、大規模な被災地と同じようには公的支援の手が届きにくいので、それぞれ親戚や知人、取引先などの応援を得て復旧に奮闘しておられます。もしも、皆さんのお知り合いの中にこのような個人や企業がおられましたら、何か支援の手を差し伸べてあげていただければ幸いです。

その第二は、報道などで取り上げられている被災地は大変なことになっているのですが、そこからほんの100メートル離れたところでは（被災されているの方々には申し訳ないことですが）まったく日常生活、日常の仕事が営まれているということです。したがって、岡山県内に観光や業務の予定がある方

は、自粛や延期などせず、ぜひ予定通りお越しく
ださい。

決して岡山県全体が、倉敷市全体が水没したわけ
ではありませんし、交通網も次々に復旧していま
す。観光地も皆様のお越しを待っております。ご遠
慮なく、岡山県の被災していない地域を楽しんでい

ただければ幸いです。

今回の災害で献身的に被災者を救助し、支えてく
ださっている自衛隊、消防、警察、そして行政の各
部局および関連団体の方々に感謝しつつ、岡山支部
からのご報告とお願いをさせていただきました。

2018年7月広島市の豪雨災害報告

広島支部 橋 本 一 寛 (生機46)

1 はじめに

本来は広島県内の報告を記載すべきと思いますが
が、それについては今後の報告にお任せして、今回
は近隣での報告をさせていただきます。7月6日は普通
の梅雨の状態でした。私は久々に暇を持てあまし映
画を見ていたら携帯電話に緊急避難警告が鳴り響き
ました。夕方でしたが夜かと思う暗中の大雨でした。
しかし、避難するほどとも感じませんでした。
ところが、消防署員が各家に避難勧告を告げて回り
ました。我が家は谷川のそばにあり、近所の数軒は
小学校の体育館に避難しました。唸りをあげていた
谷川も少し落ち着き、やっと朝が来て近所の見回り
に出て驚きでした、川側の道路はいたる所が崩壊し
て車が通れない状態、ある家は庭に大穴があいて川
まで崩れ落ちていました。また隣の町内会に流れる
同じような谷川が氾濫して数十軒が土砂で破壊され
ました。

2 一夜明けて

7日は他県での災害はまだ発生していない状況
で、私の住んでいる広島市東区馬木地区が大きく報
道されて他県の知人から多くの心配連絡をいただき
感謝した次第です。近隣の土砂で流された家の人が
1名行方不明となり、積み重なった土石や流木に巻
き込まれているのではと危惧していました。約1週
間後に十数キロ離れた宇品沖の海で発見されて土石
流の恐ろしさを改めて痛感した次第です。その後は
我が地区より愛媛・岡山県等がもっと大きな災害発
生となりました。

3 復旧

県道・市道は数日の渋滞もありましたが重機による
撤去作業が早々に実施されました。崩壊した地域
の道も土嚢の上に鉄板をのせて仮舗装して通常の通

行ができるようになり、この度の役所対応の素早さ
に感謝しました。

4 災害ボランティア

公道の土砂、流木がある程度撤去された後から民
地の土砂撤去となりました。ほとんどが床下の土砂
を取り除けない状態でした。地区社会福祉協議会主
導による災害ボランティアを立ち上げ2日間にわた
り土砂撤去作業を実施しました。床板を破り土砂を
土嚢袋に詰めて外に運び出す作業ですが膨大な量に
対してアリのような延べ440名の活動でした。完全
を求めず熱中症にならない様、気を付けながらの
活動は地域住民の共助の気持ちが育まれたと思ひ
ます。

5 今思う事

いつ何処で同じような災害が発生するかは想定で
きません、日頃から近隣の住民同士で避難経路・避
難所生活についての話し合いをしておくべきと感じ
ました。

以下に状況写真を添付します。



写真-1
氾濫した谷川付近



写真-2
ボランティアの作業
(床上の土砂)

西日本豪雨災害報告

広島支部 河野 徹 (土42)

はじめに

この度の西日本豪雨災害に際しまして、国内外からお見舞いを頂きまして有難うございました。失礼とは思いますが、紙上にてお礼申し上げます。

概要

広島県内には水害碑は江戸時代後期以降のものが50基以上あり、明治後期以降のものでも38基あります。先人が子孫への教訓として建設したものです。古くは「山抜け」、「山津江」、「つゑぬけ」と言われ、大正以降は「山津波」と言われたこの土石流災害です。その言葉、地名が内陸部に残っている事は如何に多くの土石流による災害が発生したかを示していると感じます。今回の西日本豪雨災害は死亡者・行方不明者を含めると、西日本の14府県に及ぶ広範囲の降雨災害で、特に広島県においては死亡者・行方不明者が全体の約50%を占め、死亡者108名、行方不明者6名（8月2日現在）を数えます。この内、土石災害での死亡が81名、その半数が「土石災害警戒区域内」での犠牲です。

因みに4年前の平成26年8月20日の広島市豪雨土石災害は南北5km東西1kmの狭い範囲で、死亡者は74名でした。西日本豪雨災害では、広島県内の人的被害だけでも20市町村に及び、広範囲の被災であり、被害は現時点でも180件以上に及び、全ての被災が明確になるのは時間を要するでしょう。

今回は土石災害が大部分ですが、河川災害もあり、その事例として、三篠川の橋梁流失**写真－1**、口田南の土石災害の崩壊発生部の**写真－2**を添付し

ます。この崩壊発生部が流下するにしたがって、近隣の土石を巻き込み、拡大していき、下流に居住区などが多数あると被害は増々大きくなることが想定されます。

地理・地質

広島県内には花崗岩の風化した真砂土が県内表土の約50%と広く分布しています。この花崗岩はひとたび水分を含むと崩れ易いという性質を持つという土です。この度、広島大学等が広島市から岡山県の浅口市の主として沿岸部2,900km²の調査によりますと、斜面崩壊箇所は8,400カ所以上との報告もあります。

気候・風土

広島地方は瀬戸内海沿岸の各県と同様、雨が少ないです。そのため農業に必要なため池が多数あり、兵庫県に次いで2番の20,910カ所あります。表土は崩れやすいですが、比較的雨量が少ないため、今までは大きな災害に至りませんでした。比較的降雨量の少なかった広島県の過去最大の降雨量は79.2mm/hです。この記録は1929年9月11日の記録で、今から90年前の値です。

殆どの降雨関連施設はこの値を使用して整備されているようです。その後2014年8月20日に101.0mm/hの記録が有ります。「内閣官房参与の藤井聡氏によると30年間に80mm以上の降雨回数が1.7倍になっている」事からも、今回の災害は頷けます。（写真は山下祐一氏の提供によります）



写真－1 三篠川の橋梁被害



写真－2 口田南の崩壊発生部

平成30年7月豪雨高知県被害状況

高知支部 岩井 幸雄 (土52)

高知県の大雨特別警報は7月8日5時50分から14時50分までであった。最大1時間雨量は県西部の宿毛市で108mm、1日最大雨量は高知県東北部の馬路村で691mmとなっている。床上浸水66戸、床下浸水213戸、住家の半壊1戸、一部損壊が691戸となっている。がけ崩れも12件程発生している。特筆すべきは、7日未明に高知自動車道の大豊町立川の上り線橋梁に山腹の土砂が流入して橋梁が落下して通行止め（現在は暫定的に対面交通で通行止めは解除）となったこと（写真添付）、またこの時の豪雨で立川に近い集落で刈谷地区他2地区が道路陥没で一時孤立状態となった。

また、河川では物部川（一級河川、高知県中央部）、夜須川（二級河川、高知県中央部）、安芸川（二級河川、高知県東部、写真添付）が氾濫した。安芸川河口西側の安芸漁港近辺はシラス漁の好漁場であるが、流入した流木、ゴミ等による漁への悪影響が懸念されている。また、県西部の大月町では土砂崩れで女性1名が死亡した他、柏島に通ずる県道に4m×8mの巨石が落下し県道が不通となるなどの被害があった。

総じて言えば、雨量からすれば、被害そのものは甚大ではなかったと思う。



海外研修と学生活動援助費について

工業会誌もおかげさまで持ちまして第32号を数えますが、年々増加する郵送費等の会計事情により、会誌の電子化について検討がなされているところで、そこで、本号におきましては、その試行をかねまして、在学生の自費による海外研修への支援事業に対する「海外研修報告」と各学科で開催される行事への支援事業に対する「学生活動援助費報告」への各寄稿文をweb上のみで公開とすることに致しました。

工業会のホームページ〈<http://www.eu-kogyokai.jp>〉の左バナーより「愛媛大学工業会会誌」をクリックして頂くか、以下のQRコードを読み取ってアクセスして下さい。



<http://www.eu-kogyokai.jp/honbu/工業会誌/>

その中の第32号をクリックして頂くとご覧になれます。

なお、記事をご覧いただくためにはパスワードが必要となります。

パスワードは「**2018eure32**」となります。

掲載されております内容は以下の通りです。是非アクセスの上、ご覧下さい。

海外研修報告

- 台湾での国際会議 M1 小原 翔平
電子情報工学専攻電気電子工学コース
- エジプトでの国際会議 M2 佐伯 翔吾
物質生命工学専攻機能材料工学コース
- 香港での国際会議 M2 片岡亮一郎
生産環境工学専攻機械工学コース
- 香港での国際会議 M2 菅 雅貴
生産環境工学専攻機械工学コース
- 香港での国際会議 M2 鈴木 寛達
生産環境工学専攻機械工学コース
- 香港での国際会議 M2 滝口 雄晶
生産環境工学専攻機械工学コース
- 香港での国際会議 M2 パクオソン
生産環境工学専攻機械工学コース
- ベトナムの国際会議 M2 阿草 裕
電子情報工学専攻情報工学コース
- ベトナムでの国際会議 M2 藤原 悠
電子情報工学専攻情報工学コース

学生活動援助費

- 機械工学科～工場見学～
李 在勲, 宗野 恵樹
- 電気電子工学科～復活した工場見学会～
門脇 一則 (院電H2)
- 情報工学科～平成30年度新入生オリエンテーション～
柳原 圭雄 (電子54)
- 機能材料工学科～新入生研修～
青野 宏通 (工化61)
- 応用化学科～新入生学外研修～
太田 英俊

東京支部報告 2017年4月～2018年7月

東京支部長 鳥海基忠(機54)

1. 活動状況：例年通り。総会以外のイベントは開催せず。

- ①支部総会+講演会+懇親会，②関東圏他学部同窓会の総会参加，③東京支部長が校友会首都圏支部副支部長を兼務し校友会活動，④本部理事会参加，⑤工業会誌原稿執筆，⑥工業会ホームページ改編に参加，⑦東京支部ホームページの管理

2. 支部総会

- 案内送付は1,754名(昨年1,910名。担当の菊池氏が工業会本部と連携して名簿の見直しを実施)。
- 2017年10月21日(土曜日)，法曹会館，会員31名(昨年40名)，来賓8名(昨年9名)，出席者合計39名(昨年49名，一昨年58名)。減少理由は常連会員の高齢化もあるが，理由は不明。来賓は，工業会武田会長，講演の野村先生，愛大の他学部の関東同窓会支部長など。
- 総会：支部活動報告，平成28年度決算報告，監査報告，平成29年度活動計画，平成29年度予算案が審議，承認された。
- 講演会：愛媛大学野村教授「愛媛大学初の寄付型クラウドファンディングーカラス型人力飛行機で日本記録に挑戦！ー」
- 講演の後，記念撮影，懇親会を実施。

3. 活動重点テーマ

- 電子メール名簿活用：総会案内以外の連絡(ホームページの掲載案内や工業会本部の動きなど)は，電子メールのみ。年間10%以上のアドレスが無効となるため，封書での総会案内の返信記載の情報でメンテ。昨年の総会案内以降，東京支部ニュースを7回発行した。
- 本部連携活動：名簿/ホームページ委員会に東京支部より菊池氏を委員に出した。
- 支部ホームページ：総会後の報告などを掲載した。

4. 課題：課題は変わらず，改善が見られない。

- 活性化：総会出席者減少は避けられない状況。平成卒の会員把握が全くできていない。
- 役員減少：役員は実質4名。運営負荷軽減，組織の若返りが急務。本年度は役員改選だが後任のめど立たず。
- 活動拠点の変更：支部活動拠点であった船堀の産学官連携プラザが昨年9月に閉鎖。田町の東工大のイノベーションセンターに戻ったがサテライトの職員は置かない体制に。会議室として愛大のオフィスを校友会本部経由で使用することは可能。
- 支出削減：総会案内の一部を封書から電子メール



平成29年度東京支部総会

に変更予定。

5. 少し明るい話題

- 昨年の総会初参加の宮崎氏が、二宮翔会応援のCG

動画を作成。松山市在住のシンガー佐藤氏作の応援歌と合体させて、応援ムービーを公開。これも支部総会初参加が起点。参加すれば、何かが起きるかも。

東海支部活動報告

東海支部長 兵頭 修 (機46)

東海4県（愛知、三重、岐阜、静岡）で、ご活躍の愛媛大学工学部卒業生の皆さん！

皆さんは、愛媛大学工学部を卒業されて、様々な分野でいろいろな経験を積まれ、現在も、ご活躍されている方々や定年を迎え新たな人生に挑戦されている方々、人それぞれの人生を有意義に、お楽しみのことと存じます。

そこで提案ですが、ここで、ほっと一息入れて、懐かしい学生時代を思い出しませんか？

その一つの機会として、皆さんの現在の様々な人生経験を少しお話しして頂くとともに、愛媛大学の近況を現役教授から、直接、お話が聞ける懇親会を目的とした愛媛大学工業会東海支部総会に、気楽に参加してみませんか？

実は、その東海支部総会の現状は、参加者は毎年20名前後で推移していますが、参加される方々が高齢化してきて、年々平均年齢が上昇する傾向にあります。

つきましては、愛媛大学を卒業し、東海4県の会

社に入社されたばかりの方々には、青春時代の技術屋としての好奇心を燃焼させて、ぜひ、ぶらりと、ご参加願います。

そして、一緒に、東海4県でご活躍の諸先輩の方々と飲食をともにしながら、東海4県での様々な会社情報や仕事の進め方を教えて頂き、談笑し合うことで、少しでも、明日への仕事へのヤル気の糧にして頂ければ、幸いです。

また、現役バリバリの教授をお招きして、愛媛大学の近況報告をして頂きますので、世界に向けて活躍する愛媛大学工学部の逞しい姿を、直接肌で感じて頂き、その卒業生であることを誇りに思ってもらえれば、幸いです。

最後に、お近くの愛媛大工学部の卒業生を見つけて、お互い、お誘いの上、今年の東海支部総会には、ぜひ、ご出席頂きますよう、お願い申し上げます。

(2018年10月27日JR名古屋駅周辺の居酒屋の予定／詳細は後日御案内)



東海支部総会風景 (2017年度)

平成29年度近畿支部の活動報告

近畿支部長 渡 邊 武 晴 (機42)

1. 近畿支部活動状況

1) 総会&懇親会について

近畿支部では平成29年度総会&懇親会を平成29年11月25日(土)に大阪第一ホテルで開催しました。

当日は工業会本部より池内理事長、学校より機械工学科岡本教授をお迎えし、総勢40名の出席者での(昨年度と同数)開催となりました。

総会では、支部の活動状況、会計、役員体制(前年と同じ)などが報告通りの内容で承認されました。

引き続き行われた懇親会では、池内理事長から本部ホームページのリニューアルや理事会の効率化改善などのお話を頂きました。また、岡本教授からは最近の学校の構内の様子や法人化以降の学校運営の課題など興味深いお話を伺いました。引き続き池内理事長の乾杯のご発声で懇親会が始まり、学校時代の懐かしい話や近況を語り合ったり、名刺交換したりで賑やかな懇親会となりました。

このあと出席者全員が順番に近況を報告しました。それぞれ第二の人生での生き生きとした活躍ぶりについてそれぞれが個性あふれる内容の話を披露するのでみんなが興味津々で大いに盛り上がりました。参加者が相互に大いに参考になる話が多かったと最後までそれぞれの話を聞いていたのが印象的でした。

会後に、「皆様の近況や考え方など示唆に富むお話があり、これから先の糧になりそうです。」との声が聴かれました。最後に、白石幹事(生機45卒)

の万歳三唱で会を締めくくり来年も元気に再会を約して閉会となりました。当日の出席者と新しい役員体制を下記します。

《出席者》

工業会理事長 池内直之	生機45	河端 豊	冶金50	長尾 伸明
機械科教授 岡本伸吾	生機57	井上 孝夫	金属60	森本 直之
機械42 渡邊 武晴	院生機61	正岡 律夫	電気38	湯本 秀明
機械44 藤川 雄示	生機H4	岸 正蔵	電気48	三輪 幸一
機械44 嘉藤 治	院生機H6	西村 謙史	電気62	奥田 康弘
機械46 戸川 悦男	冶金30	北脇 道夫	工化39	石川 功
機械47 大西 文雄	冶金32	丹 寿志	院応化H7	渡辺 員啓
機械48 多田 博幸	冶金35	中川 義弘	応化H7	中西 健太
院機56 小林 英雄	冶金35	三好 永泰	情報H18	浅田 浩照
機H5 山崎 裕司	冶金45	布居 徹	院能材H25	仙波 亮太
生機45 金山 重治	冶金46	三好 良一	院能材H27	藤橋 健太
生機45 白石 健	院治47	富田 和幸	院応化H19	兵頭 善章
生機45 田坂 惇雄	冶金49	梅村 泰史		
生機45 柏原 繁	冶金49	橋本 正明		

2) 校友会との連携活動

工業会近畿支部では校友会近畿支部の活動にも連携・協力させて頂いておりまして、2月28日(火)には校友会主催の就活生45名と近畿圏在住の卒業生等20人(内、工業会近畿支部7人)による情報交換会が大阪梅田で開催され、工業会近畿支部からも7名の会員が参加して学生たちと就職活動に当たってのアドバイスや経験話等の情報を交換しました。



平成29年度近畿支部総会

2. 今年度の近畿支部役員

	氏名	学部	卒年		氏名	学部	卒年		氏名	学部	卒年		氏名	学部	卒年
支部長	渡邊 武晴	機械	S42	幹事	金山 重治	生機	S45	幹事	多田 博幸	生機	S48	幹事	山崎 裕司	機械	H5
理事	丸山 明彦	機械	S37	幹事	柏原 繁	生機	S45	幹事	三輪 幸一	電気	S48	幹事	峯山 佳之	院電電	H15
幹事	白石 健	生機	S45	幹事	戸川 悦男	機械	S46	幹事	梅村 泰史	冶金	S49				

岡山支部報告

岡山支部長 額田 信一 (電52)

岡山支部の活動状況について、以下にご報告させていただきます。

1. 支部役員会(兼)会員親睦会 平成29年7月1日
2. 特別講演会 平成29年11月25日
3. 支部総会・懇親会 平成29年11月25日

1. 支部役員会(兼)会員親睦会

平成29年7月1日(土)に「鳥好駅前本店」で開催しました。石井支部長から、工業会本部の理事会・役員会の内容や、校友会中国支部設立の準備状況が報告され、来年度の支部役員構成や、11月に開催予定の特別講演会および支部総会・懇親会の準備について話し合われました。その後、恒例の会員親睦会に移り、役員・会員が楽しく歓談しました。参加人数は17名でした。

2. 特別講演会

平成29年11月25日(土)の午前中に「アークホテル岡山」で開催しました。稲住元気氏(H14情報院卒)に、『船用大型ディーゼル機関の紹介と最新動向』をテーマとした特別講演をして頂きました。

講演では、スケールの大きい船用大型ディーゼル機関(エンジン)の概要から環境規制対応型エンジンの最新のトレンドまで、ユーモアを交えて説明されました。また、所々にクイズを取り入れ、聴講者と対話形式で盛り上がる等、非常に有意義な1時間でした。

3. 支部総会・懇親会

平成29年11月25日(土)の午後より、記念撮影、総会、及び懇親会へと移行しました。

大学から門脇一則教授(愛媛大学大学院理工学研究科)を、本部から武田壽愛媛大学工業会会長をご来賓にお迎えし、大学および工業会の近況をお話しいただきました。その後支部状況の報告、役員を選任、会計報告ならびに監査報告が行われ、全ての議案が賛成多数をもって承認されました。

懇親会では特別参加者として他学部等ご出身の3名をお迎えし、当会員は卒業年度が昭和20年代の方から、平成17年度の方まで和気あいあいと懇親を深めていただき、最後は恒例の学歌斉唱と一本締めで無事閉会となりました。参加人数はご来賓を含めて



平成29年度支部総会／2017. 11. 25 アークホテル岡山にて

41名でした。なお語り尽くせなかった方は、同ホテル内で開催された二次会にて更に話に花を咲かせながらカラオケ等で大いに盛り上がりました。

来年度の総会は平成30年11月17日(土)を予定しておりますので、是非ともお知り合いの会員の方をお誘い合わせのうえ、ご参加下さる様お願い致します。

広島支部報告

広島支部長 河野 徹 (土42)

1. 平成29年度の行事

広島支部では平成29年11月3日(金)に支部総会とマツダ株の工場見学会を同日開催致しました。

工場見学会は13時からマツダミュージアムと宇品工場の見学をした後、マツダの愛大OBによるミニ講演会を実施しました。工場ではロードスターやCX-5などが混流生産されているラインをすぐそばで見ることができ、ミニ講演会ではSKYACTIV-Xの最新技術をわかりやすく説明して頂きました。

写真-1 は見学会後の記念写真です。マツダには愛大卒業生が120名在籍しており、支部活動も積極的に参加されております。

引き続き17時より開催した総会では工業会より武田会長、大学より武部教授をお迎えし、**写真-2**の様に総勢61名の参加となりました。武部教授には最近の学生気質をわかりやすく紹介して頂き、我々には有益な情報となりました。平成29年度は三原や福山など東部からの参加者も多く参加して頂きました。これは工場見学会を同日開催とした事と総会・懇親会を祝日に開催したことが要因と考えております。従来広島支部は原則金曜日の開催としてきましたが、今回の結果から土日や祝日の開催も検討して



写真-1 マツダ株での工場見学会

いきたいと考えております。

また11月に総会での決算及び活動計画のご報告をしていました。このタイミングでは年度の主な活動が完了しているため総会を早めてはというご意見があります。この対応としては、4月に前年度の決算及び当該年度の活動計画をまとめ、広島支部のホームページへ掲載し、総会・懇親会は会員の都合、多くの参加者を得るため時期を多少変更して、実施することとしました。

昨年度の決算及び本年度の活動計画は既に支部



写真-2 平成29年度広島支部総会

ホームページに掲載しております。会員の皆様には
ご覧の上、ご意見ご希望をお寄せ下さい。

2. 平成30年度の行事予定

- (1) 平成30年度 愛媛大学工業会広島支部総会
平成30年度は「愛媛大学校友会中国支部設立総会」
が実施されますので同日、同会場にて工業会の支部

総会を開催します。合わせて、懇親会は校友会と合
同で実施する予定です。

日時 総会 平成30年 9月 8日(土)13:00～14:00

懇親会 同日15:00～

場所 ひろしまハイビル21

- (2) 登山イベント：10月

高松支部活動報告

高松支部長 谷 喜 文 (院電53)

愛媛大学工業会の皆さま、お元気ですか？

恒例の高松支部大会は平成29年11月17日(金)、リー
ガホテルゼスト高松において、大学より情報工学科
の柳原圭雄教授、工業会より武田壽会長をお迎え
し、総勢30名にて盛大に開催致しました。

柳原先生から、産業構造の変化に柔軟に対応する
ため、平成31年を目途に工学部を1学科とし、各コー
スの定員を柔軟に対応することを検討中であること
など、大学内の状況をご紹介いただき、武田新会長
からは名簿管理の充実やホームページ刷新など本部
近況についてなどお話し頂きました。

出席者は、電気34年の細包博祥先輩を最年長に昭
和34～49年卒3名、昭和50～64年卒12名、平成1桁
卒5名、平成10年以降卒8名と、各年代幅広く集ま
り、転勤族、自営業、起業者、OB…様々なキャリ
アの皆さまと楽しい時間を共有できました。

最後は、「工業会の旗」の下、お約束の記念撮影
です。

昨年につづき今年も6月2日(土)に高松グランドカ
ントリー鹿庭コースで9名が集まり楽しくゴルフを
楽しみました。

結果は、院冶金59年の赤澤延樹様が優勝されました。

高松にゆかりの皆さん、年に何度か母校の話や近
況報告で盛り上がってみませんか？

楽しい仲間が待っています。



高知支部報告

高知支部長 中村考男(鉦40)

高知支部では、総会を平成29年11月11日(土)午後5時00分より、はりまや橋近くの料亭「葉山」で開催しました。

出席者は本部から谷副会長、大学から大学院理工学研究科教授の岡本先生をお迎えし総勢26名の開催となりました。

総会に先立ち夕部雅丈工学博士(博士生産H13)による「AI(人工知能)時代の工業系技術者の役割を果たすために自分の価値観を知り、創造力をつける」と題した講演会を開催しました。『2045年のシンギュラリティを控えたAI時代においては、人間に残された仕事は「創造と管理と接客」ではないか。また、哲学を勉強するの必要があり、哲学の中でも、地球資源と環境の有限性を解く原理を持つ、竹田青嗣の「現象学」がお勧めである。さらに、丁度Eテレで12回の「人間って何だ! -超AI入門-」が放送されている最中であり、毎日、テレビや新聞報道で注目されているAIについて、土木建設業界のトンネル掘削での安全性や100年持たせるためのコンクリートの表面判定にもAIが活用されている。そして、創造技法や管理のためのコミュニケーション技法の一つとしてNLPがある』などの具体事例を

踏まえた貴重な話を聞く事が出来ました。

総会では、谷副会長から工業会の近況について、岡本先生から大学を取り巻く状況について、話があり、続いて懇親会に入りました。

懇親会では、終始なごやかな雰囲気、思い出話に花が咲き楽しい時間となりました。二次会はスナックに移動し、谷副会長、岡本先生を囲んで一層の親睦を深めることができました。

翌日、毎年カシオワールドカップが行われているkochi黒潮カントリークラブで、ゴルフ大会を行いました。当日は良い天気恵まれ、雄大な太平洋を眺めながら和気あいあいと楽しいゴルフでした。大会はダブルペリア方式で行い、1位から3位までの差が1.6点と大接戦となりました。ちなみに、谷副会長のスコアはネットスコア75.6で3位でした。

平成30年度の支部総会・懇親会は「料亭旅館・臨水」で11月10日(土)に、ゴルフ大会は翌日11日(日)に開催致します。また支部総会前に「人間の成長」と題し、夕部雅丈工学博士による特別講演を行うこととしております。気さくな同窓会ですので、お声を掛け合って頂き多数の参加をお待ちしております。



2017. 11. 11 第27回高知支部総会 於料亭「葉山」

平成29年度『第25回愛媛大学工業会愛媛支部総会』報告

愛媛支部長 木村正樹 (院機54)

【日時】平成29年10月29日(日) 15:00から19:00

【場所】愛媛大学校友会館(松山市文京町3番)

第25回の愛媛支部総会のご報告をいたします。ご来賓として

八尋 秀典 先生(工業会名誉会長, 工学部長として講演会からのご出席)

大賀水田生 先生(愛媛大学 理事・副学長及び本部からのご出席)

塩梅 敏 様(株式会社NPシステム開発取締役社長のご出席)

をお迎えし、また、新社会人として6名と二宮翔会2名をご招待しました。

まず元支部長の篠原俊憲さん(鉦33), 前副支部長の秋田浩二さん(機38)他, ご逝去された会員のご冥福をお祈り申し上げます。

開催の挨拶を木村から申し上げました。司会は白石晃一様(電電H7)が行い、ご来賓を代表して大賀水田生先生(院土51)から、愛媛大学および工学部の近況・改組とご祝辞をいただきました。

総会では、平成28年度の支部活動報告と決算および監査報告、そして「役員改選」の議事では、新支部長に木村正樹、副支部長に渡部公則さん(機51)と、岡本伸吾先生(院生機59)、監事に倉本逸男さん(機55)が推薦され、承認されました。その後平成29年度の活動計画・予算(案)を説明し、承認されました。また相原恒博先生(電30)から、工業会本部と愛媛支部との予算と決算の関係について質問

が出され、本部の武田壽会長(機46)から説明をいただきました。

総会後のご講演を『NPシステム開発これからそして…?』と題して、塩梅敏様(工化45)(株式会社NPシステム開発取締役社長)に行っていただきました。塩梅様は、化学薬品の製造会社でポリマーの研究開発に従事した後、松山で起業し、デジタル通信のシステムやプログラム開発からその装置の製造・販売まで自社で行っているとのことでした。営業用トラックやバスの運行状況、エンジンの回転数や温度などを通信しビッグデータとして集積し活用するシステム開発等興味深い話でした。さらに学生でも名刺を作って相手に渡し連絡が取れることの重要性を話されました。

記念撮影の後、懇親会に移りまして、渡邊政富副支部長(土H2)の司会で始まりました。八尋秀典工学部長からご祝辞をいただきました。篠原元支部長の乾杯の後、皆さんご歓談していただきました。アトラクションとして、愛媛大学交響楽団弦楽4重奏の演奏(“アイネクライムナハトムジーク”など)と倉本逸男さんの進行役のビンゴゲームで会は盛り上がりしました。最後は矢野紘顧問(電41)に締めていただきました。なお、ご来賓を含めて総会では45名、講演会と懇親会では47名のご参加をいただいた、意義深い一日となりました。また、平成30年度には、さらに多数のご参加を期待しております。



昭和38年卒鉾山学科クラス会in彦根

宗片 康 修 (鉾38)

鶴首して、待ちに待ったクラス会の日がやって来た。

筆者は、5日前の木曜日夕刻に、右目がおかしい?と感じ、左目を閉じると、真っ暗、ほんの一角ほど光が差しているだけ、「やばい!緑内障だ」と思い、翌金曜日早々に眼科へ、検査に検査後、網膜剝離とのこと。手術の方法もあるが、見えるようにはなるだろうが、手術によるデメリットの方が増えるかもと、ならば、手術もしないで、伊達政宗で行こうと決めた。彦根への行程は、軽トラに高齢者マークを貼り、家から10分ほど下を走るが後は、中国道と名神なので、下を走るよりはるかに安全と思えるので、朝5:40出発、京都までは車も少なく全く安全、11:40第一集合地「彦根駅」着、彦根駅と言えば今冬若い警察官が上司を撃つという事件のあった所、のすぐ近くの第二集合地「軽食喫茶」へ、そこにはすでに藤原君が。

次々と仲間がやって来て笑顔での握手。全員集合で14時発の竹生島クルージングへ、40分間の船旅。

竹生島入島、石段が上へ上へと続いている、足腰の弱っている筆者、登るまいと思っていたら、杖を頼り、足が不自由な松下君が、利子さんの助言を受けながらもチャレンジする、なら私も頑張らねばと、同病相哀れみながら、どんじりで一段一段踏みしめ、手すりを頼りに、途中のお堂も院も目に入らず下ばかり見て、何と650段を二人とも踏破し、宝巖寺本堂に参拝できた。元気な福永・本名両君は、沢山のお堂など寄り道しながら、ルンルンでお参りする余裕だ、昔から運動しているとは思えない二人だが強

いものだ。下りも急坂に気を付けながら、武本幹事の慈愛に満ちた監視の下、最後に帰着、帰航船に揺られて、彦根港から1分ほどの「かんぼの宿彦根」に入宿、ゆっくり、手脚のびのびと落ち着いた。

入浴を済ませ、宴会場へ、お願いしていたスクリーンもセットされていて安心。今まで1名も欠けていなかった我らがクラス、前回の岡山からわずか2年の間に、津村・堀川・山田の3君が急に旅立ち、黙とうから開会。最遠来の田中君の音頭で乾杯、「かんぼの宿」は、JAF会員や簡保会員がいれば、全員にビールサービスがあり、愛大の「媛の酒」や戴き物の銘酒も持参していたが持ち込み料が非常に安くありがたい。近況報告と言うことで、筆者は網膜剝離の話、どなたにも二の舞をして欲しくないので、「毎朝目覚めた時、片目つむり視野に変化がないことを両眼それぞれに確認するように、一日がおろそかにできない場合があるので、毎日行うよう習慣にし、異変あれば即刻医者へ」と「朝ご飯のおかずをしっかりと取るように」とも話した。全て、筆者の失敗経験を生かそうという事。また、今回急遽欠席の荒井・津田両君は奥様の体調不良とのこと、お元気を回復してもらいたいもの、岩田君はもう長く参加できていないがきっとパチンコへは行っているだろう(笑)との報告。酔いも回り、60年前の懐かしい歌詞をスクリーンに映し、渡辺君の「ミヨちゃん」は60年間この曲だけを歌い続けているので立派なものだ、荒井君の「乾杯の歌」も準備していたが欠席で聴けなかったのは残念!昔馴染んだ何曲かを高歌放吟、最後に「愛媛大学学歌」をメに合唱、皆さんちゃ



乗船前



沈影像前全員集合

んと覚えておられて、さすがにエリート。

宴会時間終了、部屋へ入り、二次会、年甲斐もなく遅くまで色々な話に花を咲かせ、歳はとったが気分は若い。

「かんぽの宿」は親方日の丸的な所があり、それだけに施設などが良く、中々良い宿だった（一寸CM）、幹事の武本・松岡両君に感謝！感謝！

二日目は、「国宝彦根城」へ。国宝のお城は、松本城・姫路城・松江城の四城だけ。これまた階段・階段・階段、登り口に準備されている杖を借りて登る、特に天守閣の最上階の急坂は、めっちゃ急！前日の竹生島で、山出君に「安全な手すりの握り方」を教わっていたので、早速役立った。天守閣をバックに集合写真。また下りの階段、国宝だけに、手すりをつけることもできないのだろうし、川や琵琶湖岸からの丸石を並べた階段、筆者ら足が不具合者は足元注意でゆっくり下る。下り切った出入口横の博物館の濡れ縁で、生誕17年を迎えた「ひこにゃん」の出演時間、兜の下からのわずかな視野だから、ゆっくりとした動き、これが返ってすご〜く、か・わ・ゆ・い。大勢のお客さん、拍手したり、手を振ったりと満面の笑顔で喜んでおられた。

次は、お堀に隣接した「国名勝 玄宮楽々園」の散策。筆者は入り口近くのベンチに座り込み、散策を中止し松岡幹事とじっくり話をした。彼も、膝に弱点があり、歩くのにやはり、苦労しているようだ。超元気な幹事だから、しっかり歩かせてくれる、有難いやら辛いやら（サザエさんにこんなくだりを見た）。

『彦根城の後、玄宮園を見学：

玄宮園は、彦根城のすぐ近くにあり、4代藩主・井伊直興が造園整備したそうですが、近江八幡を模したといわれる園内は、よく整備され沢山の樹々が生い茂り、広大な池の中に4つの島が築かれて、そこには趣のある橋が架かっており、なかなか変化にとんだ回遊式の大庭園です。なかでも、園内からの借景として仰ぎ見る彦根城天守の眺望は、絶景で、皆もしばし見とれていました。

当日は、入園者も少なく、ゆったりと落ち着いた雰囲気で見回れることができ、心癒される散策でした。』（『 』内は田中記）

皆が玄宮園を散策して帰ってきたので、まずは、土産物店経由で昼食会場、そば処「つる亀庵（ツルキアン）」へ。お稲荷さんを戴くと真っ黒、味は稲荷さんに相違ない、「黒い色は？」と聞くと竹炭粉を練りこんであるとのこと。納得！その後、ざる蕎麦も温かい蕎麦もと好みに応じて食し、最後に健康効果満点の蕎麦湯で蕎麦汁のおいしさを堪能、次回は松山での「愛大ホーム・カミングデイ」に合わせた開催に決定、その後、時間ぎりぎりまで色々と雑談に花と笑い声、彦根駅で次回の再開を約し解散、それぞれの家路へ向かう者、ついでにと近隣の寺社めぐりをする元気なものなど、非常に楽しい有意義なクラス会であった。

それにしても、78歳前後だが皆、明るく・元気、皆さん幸せな証拠だ。

2年後の松山クラス会が今から、た・の・し・み。

工業化学科昭和38年卒業同期会

三 瀬 皓 愛 (工化38)

要望を受け初めて38会（38年卒業同期会）を九州で開催することになった。宮崎県都市部に居住している三瀬が幹事を引き受けた。

鹿児島県は日本一の金の産出県であり温泉や火山が多くあることから他の観光地と趣の異なる旅になると鹿児島市を中心にした観光を企画した。検討を始めている時丁度NHKの大河ドラマ「西郷どん」の放映も決まった。その関係もあり38会が従来実施してきた秋の開催を春に変更し3月14・15日に実施することにした。

鹿児島島の陸の玄関口は、鹿児島中央駅。13時集合。

久しぶりの再会にお互いやや興奮気味。早選手配のバスに乗り込む。「焼酎蔵薩摩金山蔵」を目指し出発。薩摩おごじよの名ガイドの軽妙な話に聞き入りあっという間に1時間弱で目的地に到着した。串木野鉦山は300年以上の歴史を持ち産出した金は国内第4位の56t。この金山が廃鉦となり2005年から一部の坑洞内を利用して焼酎仕込み蔵・貯蔵庫に転用し現在に至っている。トロッコに乗り坑洞700mの奥にある世界で唯一の仕込み蔵と貯蔵庫を見学した。バスの出発を待つ間、入坑前に飲み足りなかった試飲の焼酎を味わう。

今夜の宿泊するホテルに到着。早速温泉につかり長旅の疲れを癒やす。出席者15名全員宴会室に集まり、記念写真を撮る。宴会前に次回の幹事に矢野君を決め時期については2年後の東京オリンピックをさけて2019年の秋に静岡でしたいとの提案に全員了承。前回の筆頭幹事渡部君の乾杯の音頭で宴会は始まった。吉田君の尺八の演奏が色を添えてくれた。2次会は次回幹事の音頭で乾杯。アルコールもほどほどに回り一層盛り上がった宴会になった。

翌日、観光バスに乗り込み桜島へ。フェリーで約15分、桜島に上陸した。船上では桜島の雄姿が一望に眺められ鹿児島市内から見る桜島とまた異なった姿に思わず見とれる。

最初に訪れたところは、標高373m地点にある湯



平展望所だった。噴火口に最も近づけるビューポイント。間近に迫るゴツゴツした山肌が見られ、迫力満点。次に黒神埋没鳥居に到着。ここは大正3年の大噴火で3mあったといわれる鳥居が灰で埋まり鳥居の上部1m位が火山灰から顔を出していた。大噴火の壮絶さを体感できた。

フェリーで鹿児島本港に上陸し仙巖園に入園。「西郷どん」のロケがあった説明を聞きながら。レストラン松風軒で「薩摩彩郷御膳」を昼食とした。食後は自由行動にして時間の許す限り、尚古集成館や薩摩ガラス工芸等を見学した。島津斉彬が日本の近代化の礎を築いたことを再確認する機会となった。

バスで鹿児島中央駅に行き、2019年秋静岡での再会を約して解散した。



電気工学科昭和39年卒クラス会

渡邊 健二 (電39)

鳥取県は愛媛県と似た形をしていて、中国地方で一番高い大山があるので親近感を持っていた。鳥取県の山は他に二つ知っている。蒜山と氷ノ山だ。共に山を“せん”と読むのが面白い。

電気工学科昭和39年卒のクラス会は、鳥取県の米子駅前の米子ワシントンホテルプラザで平成29年10月10日に開催された。昭和39年の10月10日は東京オリンピックの開会日である。

幹事の山本哲郎さんが、グリーンパーク大山ゴルフクラブでの親睦ゴルフとワシントンホテルプラザでの懇親会と、11日以降については鳥取砂丘、出雲大社、大山、足立美術館等を企画してくれた。

私は、10日に岡崎、丸岡さんと岡山駅で待ち合わせ、JRで米子に向かった。昔、国鉄津山経由で鳥取市へ行ったことを思い出した。故松岡文一先生の

墓参りで津山の手前の誕生寺まで行ったことがあり、津山線を通った時、結構ガタピシ揺れたので本州にも予讃線並みの鉄道があるのだなと感心したことも思い出した。

米子の町は城下町で静かだ。城の横を流れる川に沿って歩いたが、路の両側には美術品が展示されていた。風情のある町だ。

ワシントンホテルプラザでの出席者は写真の後列左から、川井浩二、本田陽保、丸岡京一、田中章博、渡邊健二、神谷峰夫、中川新一、前列左から、西光夫、高野一潔、山本哲朗、三好孝夫、磯野博一、岡崎晋二、以上13名。昨年の高松でのクラス会からの物故者、真鍋さん、宗美さんに黙禱を捧げ、山本幹事の挨拶に続き、参加者の近況紹介から宴会が始まった。私は、誰の影響か自分の体が人並みに故障



が出ていることを自慢したように記憶している。次回は長野市での開催を確認して閉会した。幹事さんありがとうございました。

今年も元気で、9月26日長野市で会いましょう。
田中章博さん宜しくお願いします。

第14回（平成30年）電気工学科昭和40年卒クラス会

清家威侯（電40）

平成30年3月11日(日)・12日(月)、第14回クラス会を都内の上野周辺において開催しました。皆さんご存知のように、上野駅は、従来は東北方面への玄関口であり、始発駅／終着駅として賑わっていましたが、数年前から特急を含む約半数の電車は、品川駅が始発／終着となり、途中駅の様相が強くなっているように感じます。

懇親会は、上野駅から徒歩約10分のところにある

「ホテル 丸谷本館」において、11日夕刻から実施しました。鶴籠、神原、重松、信田、上甲、清家、仙波、高山、田中、中筋、松井、三好の12名が参加し、大いに語り、飲み、かつ歌って楽しい時間を過ごしました。年を感じさせない程元気でかつ軒昂な様子をお互いに確認し合い、次回クラス会出席への思いを強くしたものです。

翌日は、朝8時過ぎにホテルを出発し、上野公園



をゆっくり散策しながら、当日の目的地であるスカイツリーへのシャトルバス乗場へ向かいました。公園入り口の2本の大寒桜は満開でしたが、桜並木の桜は開花までまだ少し日数がかかりそう。それでも花見の準備は整えられている様子でした。以前、桜の時期などには、電車の乗換に合わせて上野駅で途中下車し、桜見物などしたものでしたが、最近では品川駅から直通で自宅近くの駅まで行くため、そのような機会も少なくなっていました。個人の選択だとは思いますが、利便さと引き換えに楽しい機会が減少したと感ずるのは私一人でしょうか。

今年テレビで放映されている西郷隆盛の像を背景に集合写真を撮影後、緩やかな坂道を歩きバス停へ到着。バスは約30分でスカイツリーへ到着しました。

幸い快晴に恵まれ、地上350mの天望デッキ及び450mの天望回廊からは、関東一円の街並みが綺麗に展望できましたが、春の陽気のせいか、遠景の山並みは少し霞んでいたようです。

スカイツリーからの展望を楽しんだ後、フードコートで各人好みの食物を持ち寄っての昼食、その後、再会を期して解散となりました。皆さんの胸の中には、新居浜での次回クラス会（幹事：田中氏／須之内氏）への期待が膨らんでいたものと思います。

昭和38年夏に工学部が新居浜から松山へ移転したことにより、我々昭和40年卒は、新居浜で色々な事を学ぶことの出来た最後の卒業生となりました。懐かしい新居浜での次回クラス会へ多数の方が参加されることを期待しています。

機械工学科昭和39年入学者同期会（卒業50周年記念）

－（五）十年の汗を道後の温泉に洗へ－

丹 後 吉 藏（機43）

昨年末、関西地区同期生の忘年会で、古希を迎えて2年が過ぎ、最初に思い出したのは、卒業して50年になることでした。23年前の第2回目以来3度目の全体同期会として、この機会に皆で再会したいと提案があり、半年後に松山で開催することが決まり、世話人を任されました。

早速、愛媛大学工業会の名簿担当の方に連絡を取り、現住所を確認した結果、物故者6名、住所不明者が数人いることが判明しました。住所不明者については、手分けして何とか現住所を聞き出し年賀状を出しましたが、3人程宛先不明で戻ってきました。Eメールアドレスが登録されておれば転居した場合でも連絡が取れるのですが、同期生45名中Eメールアドレスを登録しているのは15名、携帯電話を持たないメンバーも数人いました。簡単に連絡が取れないのは寂しい限りでした。

1月末、50周年記念同期会の開催日を平成30年6月12日と決定して案内状を作成し、恩師と同期生40名に往復葉書とEメールで発送しました。参加者20名を目標に返信を待ちましたが、残念ながら自身の体調不良、奥さんの介護などで外泊できない同期生が数名居て、参加者は17名に止まりました。松山在住の同期生の方に会場確保、費用を決めてもらい、4月末には準備を完了しました。

同期会当日、私は前泊していたので、朝9時にホ

テルを出て、市内電車で道後へ、何度かお世話になった懐かしい今回の会場である“にぎたつ会館”に荷物を預けて、新装なった松山市立子規記念博物館を見に行こうとしたが、あいにくの休館日で断念し、様変わりした道後公園と湯築城跡をみてまわり、一度訪問したことがある道後上市の友人の家を探したが、見つからず、諦めて石手寺へ向かった。川べりに松山名物の句碑がたくさん並んでいて、素晴らしい散歩道になっていた。石手寺が昔より小さく見えたのは私だけであろうか。参拝をおえて、ホテルへ戻った。

14時から受付を開始して同期生が三々五々と集まりはじめ、手にした名札でやっと本人と確認できる程の様変わりです。50年の歳月を思い知らされました。16時前には全員が揃い同期会が予定通り始まり、物故者への合掌と黙禱をして献杯をささげて、不参加者の欠席報告をしたのち、近況を語り合い、子規の句を借りて、“（五）十年の汗を道後の温泉に洗へ”の思いで満足しました。

19時に宴会を終えた後、ホテルの別会場で二次会に移りました。二次会では各人に“学生時代で一番の思い出話”を披露してもらい大いに盛り上がりました。これが良いアイデアで、わざわざ大阪から持参したカラオケセットはテレビに接続できず物足りなかったのを補ってくれました。二次会は23時に締



にぎたつ会館玄関前



愛媛大学機械科39年入学記念

め、皆で久しぶりに道後温泉の湯に浸かり、50年の垢を洗い流すことができました。

翌朝は出発予定の9時を早めにチェックアウトし、ホテル前と道後温泉本館前で記念撮影の後、徒歩にて椿温泉・飛鳥乃湯泉を經由して城北キャンパスを訪れました。僅かに残る昔の面影から懐かしい思い出が蘇りました。

城北キャンパス正門と新築された工学部棟の前で記念撮影を行い、学生当時の研究室等を見学しました。グラウンドが建物に占領されてしまっていたのは寂しい感じでした。

次にロープウェイで城山に上り松山城を背景に記念撮影の後、一番町から電車で松山市駅に移動し、子規堂を訪れて坊っちゃん列車前で記念撮影、高島屋の東雲レストランで名物“鯛の釜めし膳”の昼食

で締めました。これで23時間の同期会を無事に終えることができ、次回は卒53年（3年）後の再会を期して家路につき松山をあとにしました。丸一日の同期会であったので、十分回顧できたのではないかとおもいました。

フェイスブック（愛大機械科三十九年）には同期会の様子とトピックス、One Driveには集合写真・スナップ写真（約400枚）をアップしてありますので、随時アクセスもダウンロードも可能ですから、思い出にしてください。

今回、参加できなかった同期生にも声をかけ、雰囲気を知らせていただければ幸いです。お互い健康にはくれぐれも気を付けて次回も元気な姿で再会できることを祈念しております！

生産機械工学科昭和43年卒 卒業50周年記念同窓会報告

中原 征 司 (生機43)

平成21年に卒業後に初めての同窓会を松山で開催し、その後京都、鞆の浦（広島）、千年松（今治）、近江八幡（滋賀）と回を重ねて開催してきましたが、卒業後の50周年記念同窓会として愛媛大学カミングデイの日時（平成29年11月11日）に合わせて松山で開催しました。

在学時と大きく変わった大学構内を学生祭が並行して開催されている中「新製されたミュージアム」を見学、当時はダンスパーティ、学生祭演劇会場（写真参照）等に使っていた思い出ある体育館が改装された「南加記念ホール」でのカミングデイ式典に参

加して、学長及び校友会会長による大きく変化した大学の現状を聞きました。

節目の卒業生に1,500円の商品券のプレゼントをもらい構内の売店で買い物して、道後の「メルパルク松山」で皆が宿泊して同窓会を行いました。

卒業時の仲間は35名であったが、50年が経過し5名が亡くなり、また連絡が付かない2名を除く28名に案内し、半分の15名の参集を目標としたが9名が集まって旧交を温めました。翌日は次回もまた早い時期に松山での再会を約束して散会しました。



学生祭演劇会場



曾山指導教官引率で卒業前企業訪問



川口 坂口 原 藤井 中原
菊池 山本 藤田 小笠原

平成29年,平成30年度冶金学科参期会報告(冶金学科,昭和45・46・47年卒)

三好良一(院治47)

平成29年度は,10月18日・19日に,平成29年度の冶金学科参期会を姫路市で開催しました。松山市で行う予定でしたが,愛媛国体のため変更しました。参加者(敬称略,順不同)は,西田先生,45年卒の池上博志,久保洋,岡本正治,田中和成,前田和彦,皆川義晴,46年卒の稲葉恒太,加藤久博夫妻,源田剛,花本和典,貞広公良,久保武彦,村上栄一,灘清和,井上恒夫,三好良一,幹事の木村正信,47年卒の久保和義,岡隆の総勢21名です。18時から宴会。今年は薩摩鮮魚水産で,ビールで乾杯した後,いつも通りの賑やかさで,1年振りの再会を愉しましました。その後は,20時から街中の「スナックVIVI」に繰り出し,12時頃までカラオケ。皆さん酒に強い。19日は,朝食後,姫路城を見学しました。昼食後姫

路駅で散会しました。

平成30年度は,7月3日・4日に,平成30年度の冶金学科参期会を道後の大和屋本店で開催しました。参加者(敬称略,順不同)は,西田先生,松坂俊宏,白石政男,藤田昇平,貞広公良,大西英治,源田剛,宮内荘一,岡隆,岡本正治,稲葉恒太,大井幸治,前田和彦,灘清和,西田忠司,久保武彦,三好良一,村上栄一,田中和成,久保和義,加藤久博夫妻,総勢22名。但し,初参加で白石さん,久しぶりの大井さん。まず,愛媛大学大学院理工学研究科物質生命工学専攻青野宏通先生のご案内で,懐かしい母校を見学することができました。ウィークデーなので,生の授業の様子を見せて頂きました。宴会場の道後温泉大和屋本店に着き,まずは一風呂





浴びてから、宴会をはじめました。宴会後はタクシーに分乗して二番町のカラオケスナック「らぼーる」で24時頃まで楽しく過ごしました。翌日は、道後温泉の朝風呂、子規記念博物館、松山城、秋山兄弟の生家を訪れ、伊予鉄会館で昼食後散会しました。

来年は、46年卒の貞広公良さんの段取りで、7月頃に広島で開催予定です。お世話頂きました工業会事務局、参加頂きました方々に深く感謝致します。

なお、次の方は住所が不明となっていますので、

ご存知の方は愛媛大学工業会までご連絡下さい。
 的場文男S45, 面谷隆志S45, 大下和夫S46, 熊野博S46, 安田悦治S46, 石川修一S47, 尾原俊夫S47, 神田義輝S47, 北村光伸S47, 塚本哲治S47, 寺岡富士雄S47, 藤淵公一S47, 松本明S47, 寄田洋一S47, 森洋三S49院

平成29年姫路幹事：木村正信（冶金46年卒）

平成30年道後幹事：大西英治（冶金47年卒）

三好良一（冶金46年卒）

電子55年クラス会

真 矢 讓 (電子55)

人生の節目となる還暦の年を記念して、「電子工学科昭和55年卒還暦同窓会」を平成30年1月7日にホテルマイステイズ松山にて開催しました。参加者は14名（東京地区：3名、関西地区：4名、地元愛媛：7名）でした。写真撮影から開始し、お料理とお酒を頂きながら、全員が出席番号順に、近況を報

告しました。卒業以来、38年ぶりの再会の方もいましたが、その歳月を感じることなく気分はあっという間に学生時代に。二次会参加者も13名となり、みんな帰りがたく当時の話でとても盛り上がっていました。

この会は、LINEのグループ作りから始まり、徐々



相原先生を囲む会（平成30年1月3日）

に輪を広げ、案内など全て連絡先はLINEで行いました。改めて、LINEの便利さやすごさに感動しました。LINEでは、案内、学生時代のコピーがアップされ、情報が共有され、当時の青焼きのプリントが流れています。

1月3日には、昭和55年電子卒のメンバーにより「相原先生を囲む会」を企画し、相原先生、村上先生、伊藤さんに参加していただきました。1月6日には、「田崎研新年会」に参加させて頂きました。昭和55年電子卒では、田崎研メンバー3名とそれ以外の3名合計6名が参加しました。先生方には、学生時代の感謝、卒業後の状況を報告しました。先生



田崎研新年会（平成30年1月6日）

方にお会いできて嬉しかったです。ありがとうございました。これからもお元気で！！

平成30年は、人生で忘れられないイベントから始まりました。とはいえ、人生100年時代が現実味を帯びています。まだ、第2の人生が始まったばかりかもしれません。長い人生を充実させるために、同窓会と健康は欠かすことができないものです。電子工学科昭和55年卒は、GoGoで歩いていきたいと思えます。

松山在住の島本君には、ホテル・会場の予約など、写真部出身の秋山君には、写真の撮影、編集などに感謝します。



昭和55年卒電子工学科還暦同窓会（平成30年1月7日）

鳥人間コンテストにむけて

代表 土 居 将太郎 (機械工学3回生)

2002年に創られた二宮翔会は、今年で創部16年目を迎えました。私たちは八幡浜市出身の偉人、二宮忠八が作った「カラス型飛行機」を人力飛行機として現代に蘇らせるべく日々活動を行っております。部員は去年に引き続き、新入生を11名獲得でき、工学部を中心とする総勢35人となりました。

昨年鳥人間コンテストの出場を逃した私たちは、次年度に向けて機体性能の向上・調整に取り組んでいました。2017年夏、笠岡ふれあい空港で行ったテストフライトでは満足のいくフライトを行うことはできませんでした。しかし、まだ経験の浅い私たちにとって有意義な時間となりました。

今年3月に鳥人間コンテスト2018への出場が決まり、より一層機体製作に邁進して参りました。3年ぶりの鳥人間コンテストとなりますが、前回出場の際から大幅な進化を遂げました。その中でも最も大きな変化はカーボン素材で作られた骨組み(フレーム)部分を一新したことです。今まで10年近く同じものを使い続けていた部分でしたが、昨年行ったクラウドファンディングにて皆様からのご支援をいただいたおかげで新たに買い替えることができました。一から設計を見直し、改良を行ったことによ

り機体全体で5kg以上の軽量化に成功しました。

私たちは6月から6回のテストフライトを行ってきました。テストフライトはなかなか思うように進みませんでした。部員で一丸となって調整や修復を繰り返し、最終的には安定して機体を浮上させることができるようになりました。

また二宮翔会応援プロジェクトまで立ち上げていただきました。皆様からのご激励のお言葉、大変励みになっております。今年2015年以来の鳥人間コンテスト出場になります。これまでの二宮翔会の記録は769mですが、今年それを大きく超える2kmを目標に掲げております。

この原稿が皆様の目に触れるころには、大会、テレビ放送共に終了した後と思われそうですが、私たちを応援して下さる皆様のご期待に添えますよう鳥人間コンテストまで全力で走り抜きたいと考えております。

二宮翔会は今後も、より遠くへ飛ぶ飛行機を開発すべく、活動を続けて参ります。

皆様のご期待に応えられるよう、より一層の挑戦や努力を重ねて参りますので、今後とも二宮翔会をよろしくお願い致します。



(編集追記)

台風12号の影響により大会2日目の競技「人カプロペラ機部門」の開催が中止され、残念ながら琵琶湖の空を飛ぶことができなかったそうです。

テニス大会

第39回工業会テニス大会報告

十河 基介 (生機H4)

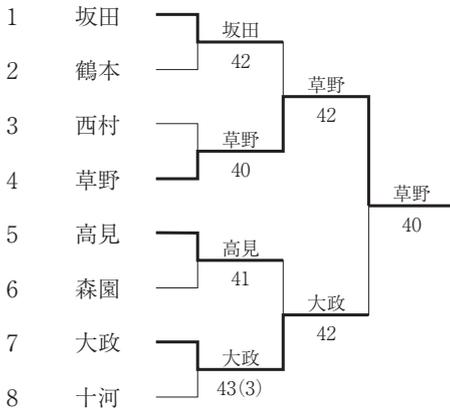
天候のため3年続きで開催が危ぶまれましたが、今回も無事に11月18日に城北キャンパスのテニスコートで開催されました。参加者は昭和44年卒業の神谷さんを筆頭に卒業生4名、愛媛大学職員2名を含め総勢33名の参加者でした。日程のためか、例年参加頂いていた卒業生の参加がなく、少し寂しい大会となりましたが、工学部学生の参加が10名ありました。

開会式での池内理事長の挨拶の中で、工業会の紹介や活動などについての話があり、卒業生、職員だけでなく、あらためて工学部学生に工業会について知ってもらえる、良い機会であったと感じました。本大会は老若男女の区別なく行われており、女性と

60歳以上にはハンディが設定されています。学生は運営などの下支えをしてくれており、テニスはもちろんの事、卒業生同士での近況報告や、参加者間の交流などを楽しむことができました。各コートで熱戦、接戦が繰り広げられ、シングルスでは男女対決に快勝した草野さんが優勝、ダブルスは圧倒的スコアで決勝進出の、浦津・石丸ペアが優勝しました。

大会最後にテニスコートで簡単に表彰式を行い、今年度の大会は終了しました。テニスを通じて、立場や世代を超えて交流を深め、意義深い一日となりました。次回の工業会テニス大会では多くの皆様の参加を、お待ちしております。

シングルス (準々決勝から)



ダブルス (準々決勝から)



参加者 (敬称略)

神谷 (土S44), 池内 (電S62),
 十河 (生機H4・職員),
 三好 (情H29), 工学部学生10名
 森田 (職員), 山本 (職員)



愛媛大学基金平成29年度決算報告について

愛媛大学長 大橋 裕一

本学では、教育研究、社会・国際連携等を通じ、地域社会を担い、地域に貢献できる人材を育成し、継続的に輩出するために必要な事業（フィールドワーク・インターンシップ支援・海外留学支援等）を実施するため、平成28年4月に「愛媛大学基金」を創設し、第三期中期目標期間の6年間で、3億円以上の獲得を目指しています。

教職員はもとより、各企業、各同窓会等、工業会員様を初めとした卒業生、一般篤志家の皆様からご支援いただき、目標を上回る金額を受け入れました。

平成29年度末の決算状況（概況）につきましては以下のとおりです。今後とも、皆様からのご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

【平成29年度受入額（収入額）について】

受入額は105,432千円（1,576件）となりました。これは、年間目標金額（5千万円）の211%に相当する成果となります。

なお、創設当初からの寄附累計額は、第三期中期目標期間中の目標額3億円に対して287,520千円（達成率96%）であり、早期に達成見込みとなっています。

※特記事項：寄附型クラウドファンディングについて

愛媛大学航空力学研究会（二宮翔会）顧問野村信福教授、同会員との協働により、愛媛県出身の「日本の飛行機の父」二宮忠八が残した設計をもとに、人力飛行機として機体を再設計する事業費獲得のため『寄附型クラウドファン

ディング』にチャレンジし、目標額を上回る成果を収めました。

皆様からもご支援を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

なお、第41回鳥人間コンテスト2018に参加します。引き続き応援願います。

【平成29年度事業（支出額）について】

地域貢献を果たす人材育成事業（学生海外派遣プログラムや未来教育基金（給付型奨学金）事業）や教育環境整備事業に活用（129,185千円）しました。

【愛媛大学グローバル人材育成事業 学生海外派遣プログラムに対するご寄附について】

グローバル化の進展する中、地元愛媛と世界をなくグローバル人材を育成するため、平成29年度に愛媛大学グローバル人材育成事業「愛媛大学学生海外派遣プログラム」を創設し、本学学生の海外留学を積極的に推進しております。

皆様からも、本事業の趣旨をご理解いただき、工学部及び理工学研究科（工学系）学生50名への海外留学費（旅費の一部補助を目的とした奨学金）に対する財政支援の一部として活用させていただきました。

【問い合わせ先】

愛媛大学 基金室（TEL：089-946-8346）

ホームページ

（<http://foundation.office.ehime-u.ac.jp/>）

本部報告

平成30年度愛媛大学工業会役員会議事録

日時：平成30年5月20日(日) 11:20~12:30

会場：愛媛大学校友会館2階サロン

出席者：高橋寛工学部長（工業会名誉会長）、

武田 壽 会長，仲田 利通 副会長，谷 喜文 副会長（兼高松支部長）、

矢野 紘 顧問、

池内 直之 理事長，藤井 雅治 副理事長，渡邊 政富 副理事長、

青野 宏通 会誌担当常任理事，尾崎良太郎 ホームページ担当常任理事、

岡本 伸吾 庶務担当常任理事、

中村喜久男 理事，白石 仁士 理事，山崎 俊明 理事，東山 陽一 理事，渡邊 政広 理事、

八木 秀次 理事，渡部 公則 理事，岩井 幸雄 理事，井堀 春生 理事，甲斐 博 理事、

井出 孝道 理事，白石 晃一 理事、

鳥海 基忠 東京支部長理事，兵頭 修 東海支部長理事，渡邊 武晴 近畿支部長理事、

額田 信一 岡山支部長理事，河野 徹 広島支部長理事，木村 正樹 愛媛支部長理事、

岡本 好弘 監事 以上30名

議事録作成：岡本伸吾庶務担当常任理事

〈会長挨拶〉

武田壽会長から開会の挨拶があった。来年度は、通常総会の年なので、役員各位のご協力をお願いする旨の説明があった。

〈名誉会長挨拶〉

高橋寛工学部長（工業会名誉会長）から挨拶があった。近況報告として、工学部改組の概要が説明された。

〈議事内容〉

- 1) 平成29年度事業報告，名簿システム報告，HP報告，決算報告について
監事からの監査報告を含めて，賛成多数により承認された。
海外研修旅費については，「支援金に上限を設け申請者に公平に配分する」ことが確認された。
- 2) 平成30年度事業計画，予算案，名簿システム改修，第31号工業会誌について
賛成多数により承認された。
また，現時点で申請されている支部行事については理事会で承認されたことが報告された。
平成5年から昨年度までの収支推移をもとに，今後の予算方針について説明がなされた。
- 3) 役員改選について
賛成多数により承認された。
- 4) その他
 - (1) 工学部カウンスル外部委員就任依頼について
賛成多数により承認された。
 - (2) 名簿発行について
来年度に，「紙媒体の名簿発行も含め，個々の会員が会員情報を検索できる手段を構築することを検討する」ことが提案され，賛成多数により承認された。
 - (3) 工業会支部総会と校友会支部総会の合同開催について
支部総会援助金の扱いについての考え方が説明され，賛成多数により承認された。

(4) 工業会と校友会の関係について

工業会と校友会は、それぞれ独立した団体であり、当面、工業会は校友会の協力団体の立場を続けることが説明され、賛成多数により承認された。

〈支部活動報告〉

各支部長より、報告があった。

以上

議事録署名人：

青野 宏通



井出 孝道



平成29年度愛媛大学工業会事業報告

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

■支部総会 案内状発送総数14,037通 総参加者数301名(内来賓24名)

支部	案内状発送数 総参加者数(内来賓)	前年比	開催日時	会場	本部からの出席者
東京	1,754通 38名 (8名)	▲156 ▲11 (▲1)	H29.10.21(土)	一般財団法人 法曹会	武田壽会長 機械 野村信福教授
愛媛	5,264通 45名 (4名)	+1,368 ▲1 (0)	H29.10.29(日)	愛媛大学校友会館2階サロン レストラン「haco愛大城北店」	工学部長 八尋秀典教授 副学長 大賀水田生教授 (株)NPシステム 塩梅敏取締役社長
広島	1,680通 61名 (2名)	+70 +4 (▲1)	H29.11.3 (金・祝)	センチュリー21広島	武田壽会長 機能材料 武部博倫教授
高知	299通 26名 (2名)	+58 +4 (0)	H29.11.11(土)	葉山	谷喜文副会長 機械 岡本伸吾教授
高松	980通 30名 (2名)	▲1 0 (0)	H29.11.17(金)	リーガホテルゼスト高松	武田壽会長 情報 柳原圭雄教授
東海	667通 20名 (2名)	+36 0 (0)	H29.11.18(土)	嘉鮮	武田壽会長 機械 保田和則教授
近畿	2,510通 40名 (2名)	+24 0 (0)	H29.11.25(土)	大阪第一ホテル	池内直之理事長 機械 岡本伸吾教授
岡山	883通 41名 (2名)	▲11 +6 (0)	H29.11.25(土)	アークホテル岡山	武田壽会長 電気電子 門脇一則教授

※愛媛支部では名簿データ調査のため、連絡先が不確定であった会員へも案内状を発送しました。

■会議

- ・学内委員会……………平成29年4月13日(12名)
- ・会長会(会長,副会長出席)…平成29年6月28日,平成30年1月24日
- ・常任理事会……………平成29年4月18日(10名),5月11日(12名)
- ・理事会(メール会議)……………平成29年5月21日
- ・役員会……………平成29年5月21日(40名)
- ・新年会……………平成30年1月23日(23名)
- ・会誌編集委員会……………平成29年8月23日

■会誌第31号発行……………平成29年9月

■講演会 募集するも申請なし

■その他

- ・学生活動援助4件(機械工学科,電気電子工学科,機能材料工学科,情報工学科)
- ・HP更新・管理,改善
- ・名簿調査・改善

- ・愛媛大学基金・工学部寄付
- ・卒業お祝い（498名分）
- ・退職教員お祝い（5名）
- ・大会運営費（テニス大会：学生含めて41名）
- ・特別広報支援（人力飛行機）
- ・支部特別支援1件 岡山支部（講演会）

■海外研修旅費 合計560,000円

[学 生] 6件 8名

	氏 名	所 属 学 科	会議場及び期間	補助金額
前 期 6万円				
1	小原 翔平 (寺迫 智昭)	大学院電子情報工学専攻 1年	台湾 国立東華大学 (2017. 10. 15~18)	6万円
後 期 50万円				
1	佐伯 翔吾 (小林 千悟)	大学院物質生命工学専攻 2年	エジプトにおける国際会議 (2018. 3. 11~13)	15万円
2	片岡亮一郎 菅 雅貴 (岡本 伸吾) 鈴木 寛達 滝口 雄晶 パクオソン (李 在勳)	大学院生産環境工学専攻 2年	香港における国際会議 (2018. 3. 14~16)	15万円 (各3万円)
3	藤原 悠 阿草 裕 (小林 真也)	大学院電子情報工学専攻 2年 同 1年	ベトナムにおける国際会議 (2018. 3. 19~21)	20万円 (各10万円)

* () は指導教員

※補助金額算定について

自己負担の海外研修を対象として、申請額（旅費の実費）の7割を上限とし、場所と内容により決定しています。

毎年決まった予算内で行っているため、応募が多いか少ないかによって同じ地域でも異なる支援金額となっています。この金額は、年度の前半と後半でもかなり不公平な金額となる場合があります。

また、事例によっても金額は異なることから、柔軟に対応するため複数の担当教員が協議をして、応募の件数、それぞれの航空運賃などを考慮して、予算内で金額を決定しております。

担当教員は、決まった予算内で、できるだけ公平性を保つように努力しております。

表紙写真／編集後記

本32号では西日本豪雨の特別記事を掲載いたしました。その後も台風21号の上陸や北海道地震がありました。被災された方々には心よりお見舞いを申し上げます。

本号の表紙を飾っているのは松山と大洲・八幡浜間を週末に走る全国的にも人気の高い観光列車「伊予灘ものがたり」です。写真は1号車で、伊予灘の夕日を連想させる「茜色」、後ろに続く2号車は「黄金色」となっており、柑橘類の輝きをイメージしています。先の西日本豪雨の影響で運休を余儀なくされておりましたが、つい先日、運転が再開され、「がんばってます！南予」のスローガンのもと、南予の復旧・復興のシンボルの1つとなっております。

この夏、たて続けに発生した災害に対し、被災者の救援やインフラの復旧等にあたられている方が会員の皆様の中にもたくさんいらっしゃるかと存じます、ありがとうございます。一段落したら、自身の青春時代を思い出しつつ学生さんの若いエネルギーを吸収しに母校を訪ね、英気を養って頂ければと思います。2019年、愛媛大学は開学70周年、工学部は（旧制新居浜時代から数えて）創立80周年を迎えます。工業会総会やホームカミングデイなども周年記念事業を多数？企画して皆様のお帰りをお待ちしております。

*写真提供：工学部技術部副技術長（実習工場） 政岡 孝氏

愛媛大学工業会会誌第32号編集委員

井堀 春生、木下 尚樹、山本 修嗣、平山 和子